

令和2年度

宇都宮市教育委員会
点検・評価報告書

令和2年11月
宇都宮市教育委員会

～ 目 次 ～

はじめに	1
第1章 教育委員会評価の概要	
1 評価の趣旨	2
2 本市の教育委員会評価	2
3 評価のしくみ	3
4 評価対象・実施期間	3
5 評価の方法	4
6 外部評価委員	4
7 教育委員会の組織	5
8 教育委員の構成	6
第2章 令和元年度評価委員の所見への対応状況	
1 教育委員会の活動状況について	7
2 教育委員会施策について	7
3 広報活動について	8
第3章 教育委員会の活動	
1 教育委員会の活動状況	9
2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感	16
第4章 教育委員会施策	
1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	18
2 生涯にわたる学習活動を促進する	31
3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	34
4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	37
第5章 広報・広聴活動	
1 広報活動	41
2 広聴活動	42
第6章 総合評価	43
第7章 評価委員による所見	45
おわりに	47
【参考資料】	
令和元年度 教育委員会付議案件等一覧	48
教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧	55
一般会計予算と教育予算	56

～ はじめに ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロールにより、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保や、地域住民の意向の反映を図るため、これまで様々な改正を重ねながら運用され、地方教育行政の基本的な制度として重要な役割を果たしてきました。

このような中、平成20年4月の法改正により、教育委員会の責任体制を明確にし、効果的な教育行政に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的に、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられ、本市においても、平成20年度から独自の点検・評価制度を構築・実施しているところであります。

また、昨今のいじめ問題を契機とした、教育委員会の責任所在の不明確さ、危機管理能力の不足などの課題が指摘されたことから、国において教育委員会の存続を含めた議論がなされた結果、平成27年4月の法改正により教育委員会制度改革が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化など、教育委員会がその職責を果たすことがますます求められております。

本市教育委員会においても、教育委員会制度改革に伴い、平成28年4月より教育長を代表とする新体制に移行し、総合教育会議などを通じて、市長と教育委員会とのより一層の連携強化を図っているところであります。

また、教育委員会会議において、教育行政にかかる基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施設等への視察や教育関係者との懇談会などにより現場の状況を把握し、事務局との意見交換により教育施策への理解を深めながら、教育現場の意向や実態をより反映させた会議の運営に努めております。

本報告書では、令和元年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、外部評価委員のご意見等をいただきながら、点検・評価を行った結果をとりまとめました。

この結果を今後のさらなる効果的な教育行政の推進に活かしてまいります。

令和2年11月

宇都宮市教育委員会

～第1章 教育委員会評価の概要～

1 評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「法」という。）」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、宇都宮市教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

＜地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋＞

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況※について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※「その権限に属する事務」とは。

法第21条に規定される事務のうち「①教育委員会自ら管理・執行する事務」「②法第25条第1項の規定により教育長に委任されている事務」「③法令により教育長の権限とされている事務」及び、地方自治法第180条の2の規定により委任された事務が対象となる。

2 本市の教育委員会評価

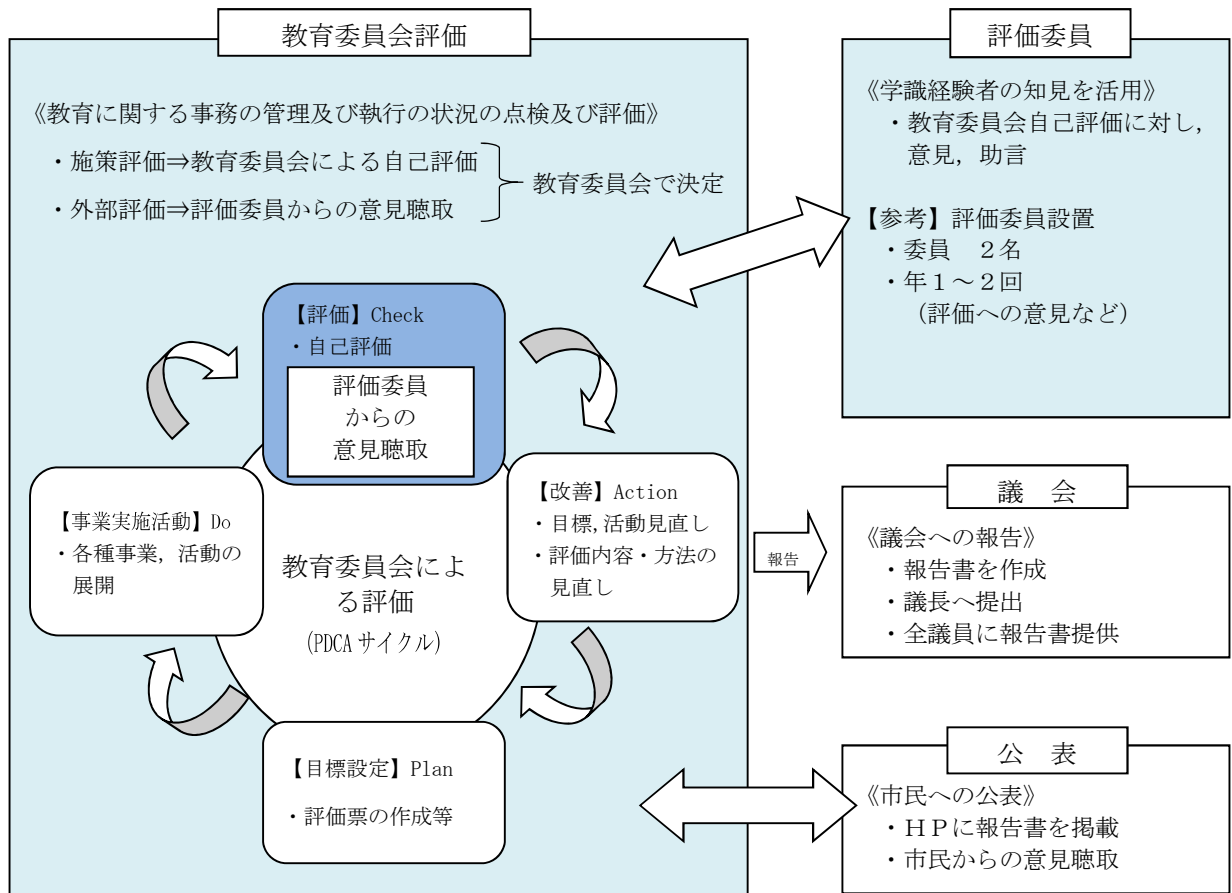
本市の評価においては、まず、「第1章 教育委員会評価の概要」において、教育委員会評価に関するしくみや評価方法について記載し、『第2章 令和元年度評価委員の所見への対応状況』において、昨年度の評価委員の所見に対する、教育委員会の対応状況を記載する。

次に、教育長と教育委員で構成される《教育委員会》の事務及び活動については『第3章 教育委員会の活動』で、また《教育委員会事務局》が実施する施策事業については『第4章 教育委員会施策』により評価を実施するとともに、本市が重点的に実施する広報・広聴活動の取組について、『第5章 広報・広聴活動』により評価を実施する。

最後に、『第6章 総合評価』により令和元年度の総合的な評価を実施し、『第7章 評価委員による所見』により自己評価に対する外部評価を実施する。

3 評価のしくみ

教育委員会により自己評価を実施し、自己評価に対し外部評価委員の意見を聴取する。



4 評価対象・実施期間

(1) 対象

令和元年度実施の教育行政全般とする。

- ◆教育委員会活動
- ◆教育委員会施策
- ◆広報・広聴活動

(2) 実施期間

令和2年4月～11月

5 評価の方法

(1) 自己評価

- ・各主管課及び教育委員会による自己評価の実施
- ・総合的な評価の実施
- ・次年度への課題，今後の方向性の明示

(2) 自己評価に対する評価委員からの意見の聴取

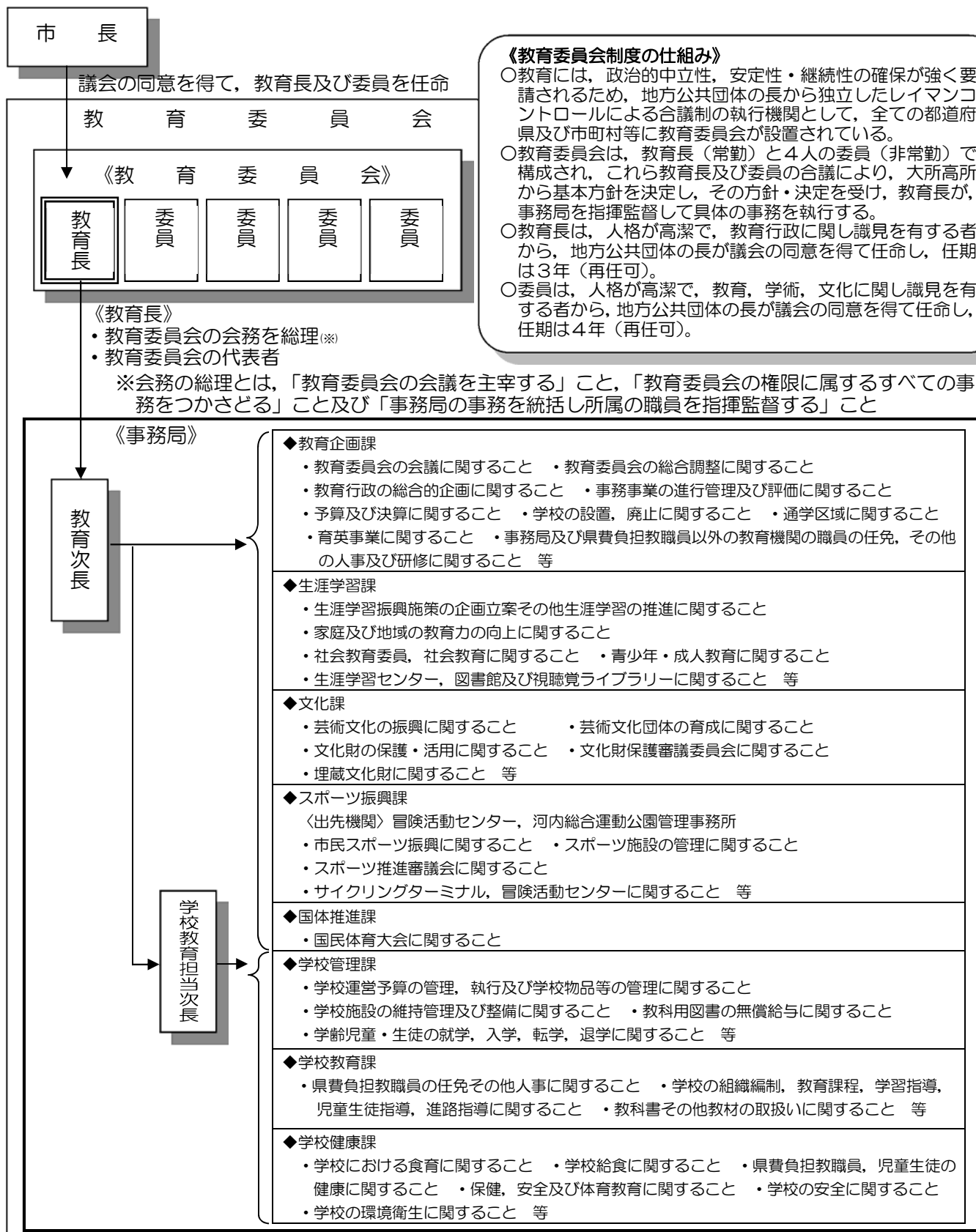
- ・教育委員会評価委員会議における意見の聴取
- ・評価票による意見の聴取

6 外部評価委員（学識経験者）

専門的かつ広い観点からの知見を期して，本市教育行政に大きく携わり，学校教育，社会教育全般における識見の高い方からご意見をいただく。

氏 名	団体・役職名
渡邊 弘	作新学院大学学長
加藤 史子	元 一条中学校魅力ある学校づくり地域協議会コーディネーター 元 社会教育委員

7 教育委員会の組織（令和元年度）



《教育委員会制度の仕組み》

- 教育には、政治的中立性、安定性・継続性の確保が強く要請されるため、地方公共団体の長から独立したレイマンコントロールによる合議制の執行機関として、全ての都道府県及び市町村等に教育委員会が設置されている。
- 教育委員会は、教育長（常勤）と4人の委員（非常勤）で構成され、これら教育長及び委員の合議により、大所高所から基本方針を決定し、その方針・決定を受け、教育長が、事務局を指揮監督して具体の事務を執行する。
- 教育長は、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有する者から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は3年（再任可）。
- 委員は、人格が高潔で、教育、学術、文化に関し識見を有する者から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は4年（再任可）。

学校その他の機関を所管

《教育機関》

小中学校 (93)	教育センター (1)	上河内学校給食センター (1)	図書館 (5)	生涯学習センター (18)	視聴覚ライブラリー (1)	美術館 (1)
--------------	---------------	--------------------	------------	------------------	------------------	------------

8 教育委員の構成（令和2年3月末時点）

職 氏名	教育長 小堀 茂雄	委員 伊藤 一	委員 清島 康伸	委員 伊藤 三千代	委員 大森 玲子
任期	H31. 4. 1～ R4. 3. 31 (1期)	H25. 10. 1～ R3. 9. 30 (2期)	H28. 10. 1～ R2. 9. 30 (1期)	H30. 10. 1～ R4. 9. 30 (1期)	R1. 10. 1～ R5. 9. 30 (1期)
職業 (分野)	— (教育行政)	弁護士 (法曹)	会社経営 (青少年育成)	会社員 (地域活動)	大学教授 (学校教育)

～第2章 令和元年度評価委員の所見への対応状況～

令和元年7月4日に「令和元年度教育委員会点検・評価」について、評価委員よりいただいた所見に対する対応状況は下記のとおりである。

1 教育委員会の活動状況について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【委員の負担軽減を考慮した教育委員会活動】 委員の負担軽減を考慮した効率的、効果的活動を目指して、教育委員会と教育施設視察等の活動の同日開催を今後も一層配慮していただきたい。</p>	<p>令和元年度においても、教育委員会の会議日程と併せて、教育施設視察を実施するなど効率的な教育委員会活動の実施に努めてきた。</p> <p>今後も、視察や懇談会については、できる限り教育委員会定例会に合わせて実施するなど、引き続き効率的、効果的な活動に努めていく。</p>
2	<p>【教育懇談会の充実】 教育懇談会の開催は、働き方改革が求められている現在、今後さらに充実していただきたい。</p>	<p>令和元年度においては、多様な児童生徒に応じた指導及び支援上の課題などを把握するため、特別支援学級の担任や日本語指導担当など小学校の教職員との意見交換を実施したほか、児童生徒へ生活習慣の習得に向けた支援などを行っている要支援児童健全育成事業（月の家）や、令和2年度から小学校で必修化されたプログラミングの公開授業等の視察を行った。</p> <p>教育現場の実態や意向を踏まえた教育行政の推進をさらに図っていくため、令和2年度についても、時事的な教育課題を考慮しながら、教育施設の視察や、教育現場で活躍されている方々との意見交換が実施できるよう、取り組んでいく。</p>
3	<p>【教育課題等を考慮した視察の実施】 学校などへの視察については、今後も現代の喫緊の教育課題等を視野に入れて、学校選択及び情報交換を積極的に行っていただきたい。</p>	

2 教育委員会施策について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【個々のケースを考慮した施策の取組】 市全体で捉えた数値目標で概ね順調と評価している施策であっても、学校区や自治会区などの実情により実現が困難な場合があることから、今後も個々のケースに丁寧に向き合い細やかで柔軟な対応をお願いしたい。</p>	<p>令和元年度においても、総合訪問や要請訪問、学校いきいき専門員による学校訪問などを通じて、学校現場へ出向き実態を把握するとともに、「学習内容定着度調査」や「元気っ子健康体力チェック」を実施し、学校毎の状況分析を行うことで学校の状況に応じた助言や指導に努めてきた。</p> <p>今後も各教育現場における実情や、各施策における今後の取組にかかる課題などを踏まえながら、施策の着実な推進に向け取り組んでいく。</p>

3 広報活動について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【積極的な意見交換やアンケートの実施】</p> <p>広聴活動については、教育現場の実態把握という観点から、今後も積極的に意見交換やアンケートを実施していただきたい。</p>	<p>令和元年度においても、「うつのみや学校マネジメントシステム」など、各事業において必要に応じ、アンケート調査を実施するとともに、宮っ子ステーションへの参加や学校への訪問など、教育委員による自主活動を通じて、教育現場における意見聴取を実施した。</p> <p>事業の実態や成果、課題などを見出すために、関係者からの意見を収集することは重要であると考えていることから、引き続き、教育現場から、広く意見を取り入れられるよう取り組んでいく。</p>
2	<p>【わかりやすく整理された情報の提供】</p> <p>知りたいことは自分で検索してすぐに調べられる時代だからこそ、わかりやすく整理された情報の提供が求められる。受け取り手が、得た情報を充分活用できているかが重要であるので、引き続き、より伝わりやすい広報物の作成に努めていただきたい。</p>	<p>令和元年度においては「教育委員会だより」の発行や「宇都宮の教育 ココがスゴい」をテーマに「広報うつのみやプラス」で政策特集を実施するなど、教育委員会の情報発信に努めるとともに、広報力の向上を図るため、外部講師を招き、広報紙の「見せ方」や「書き方」のポイントなどを学ぶ、「教育委員会広報事務研修」を実施した。</p> <p>伝えるべき情報が確実に伝わり、教育委員会の取組に更なる関心を持ってもらえるよう、これまでの知ってもらった広報の活動に加え、理解を深める広報の推進についても、引き続き取組の充実を図っていく。</p>

～第3章 教育委員会の活動～

1 教育委員会の活動状況

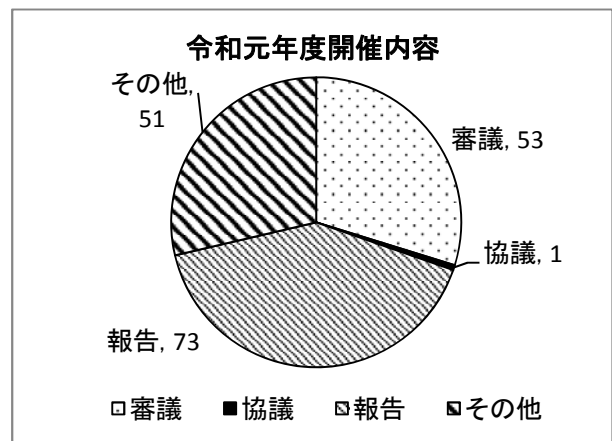
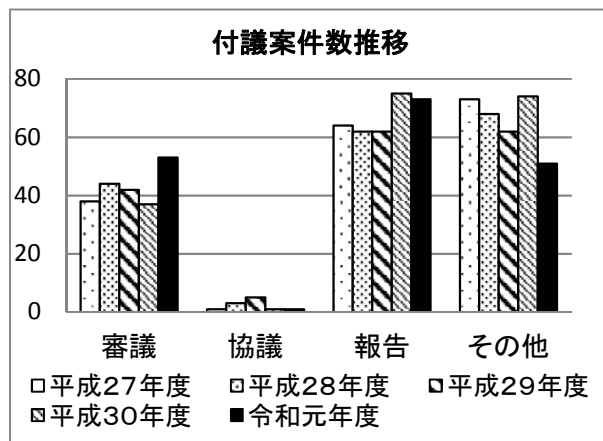
【参考】教育委員会の活動の種類

- 教育委員会会議…教育長及び教育委員が教育行政にかかる基本方針の決定などを行うための会議（法第14条）
- 委員協議会…会議に付すべき議案の事前審議，その他研究協議を行うために開催（宇都宮市教育委員会会議規則第5条）
- その他の活動
 - ・教育施設視察…小中学校や社会教育施設，文化・スポーツ施設などの視察
 - ・教育懇談会…小中学校教職員や社会教育団体，文化・スポーツ団体などの教育関係者との意見交換
 - ・市議会との意見交換…議長，副議長，文教消防水道常任委員会の委員長，副委員長との意見交換
 - ・総合教育会議…首長との連携強化を目的に，教育政策などにかかる協議・調整を行うために首長が設置・運営を行う会議（法第1条の4）
 - ・委員研修…教育の諸課題等にかかる状況把握や専門性を高めるために行うもの
 - ・委員deサロン…各課業務の現状・課題等についての共通理解を深めるために事務局職員と意見交換を行うもの
 - ・自主活動…教育委員が個別に行った教育委員としての活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年比
開催回数	定例会	12	12	12	12	12	0
	臨時会	6	7	3	9	10	1
計		18	19	15	21	22	1
付議案件数	審議	38	44	42	37	53	16
	協議	1	3	5	1	1	0
	報告	64	62	62	75	73	▲2
	その他	73	68	62	61	51	▲10
計		176	177	171	174	178	4

※市町村平均開催回数 15.1回(平成29年度教育委員会の現状に関する調査(文部科学省))

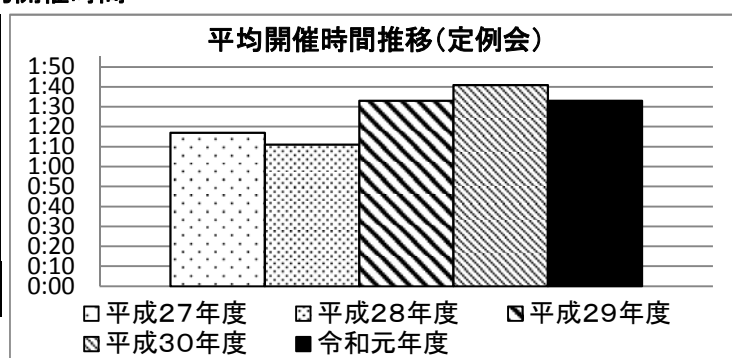


◆令和元年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件数	主な内容
基本方針及び計画策定等	13	予算編成・組織定員方針、計画の策定など
規則等の制定・改廃	8	諸規則の改正
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	6	予算、条例改正などの議会議決案件
人事案件	18	職員人事、教職員人事内申、委嘱など
附属機関等への諮問	4	教育支援委員会への諮問
教科書採択関係	2	小中学校使用教科用図書採択
その他	2	教育委員会評価、指定管理候補者の選定など
合 計	53	

◆令和元年度教育委員会会議（定例会）の平均開催時間

年度	平均開催時間	回数
平成27年度	1時間17分	12
平成28年度	1時間11分	12
平成29年度	1時間33分	12
平成30年度	1時間41分	12
令和元年度	1時間33分	12



◆令和元年度教育委員会会議の状況について

- ・審議事項については、「宇都宮市学校施設長寿命化計画」や「宇都宮市民遺産制度」など計画策定等に係る案件や、会計年度任用職員の導入に伴う規則改正に係る案件が増加したため、案件数は前年度を上回った。
- ・協議事項については、前年度と同じ案件数であった。
- ・報告事項については、小学校版「宇都宮学」副読本の作成や、「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」の策定など、新規事業に関する報告数はやや増加したが、市規則の改正等に関する報告数の減少に伴い、案件数は前年度を下回った。
- ・会議の開催時間については、報告事項が減少したことなどにより、前年度よりやや減少した。

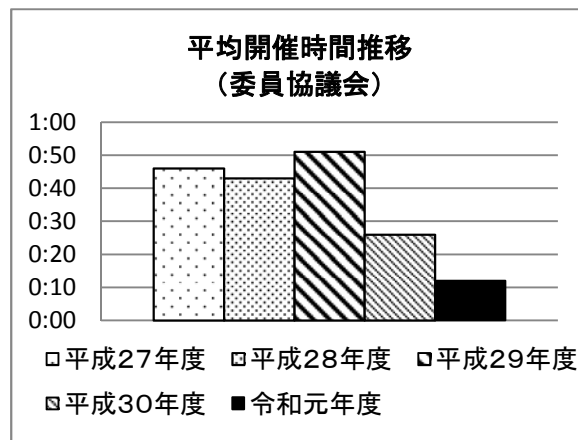
(2) 委員協議会の実施状況

◆委員協議会における議題

- ・教育委員会基本方針について

◆委員協議会の平均開催時間

年 度	委員協議会	
	平均開催時間	回数
平成27年度	46分	15
平成28年度	43分	13
平成29年度	51分	12
平成30年度	26分	4
令和元年度	12分	1



◆令和元年度委員協議会の状況について

- ・教育委員会会議における議案の事前審議を行うため委員協議会を1回開催した。
- ・平成30年6月より、委員協議会の取扱について規則に基づいて見直しを行い、委員協議会の一部を委員研修や委員 de サロンに移行したことから、開催回数及び開催時間については、前年度より減少した。

(3) 教育施設視察や教育懇談会などの活動状況

活動の実施においては、可能な限り教育委員会会議と同日開催とするなど、効率的・効果的な活動に努めることで、委員の負担軽減を図ったところである。

ア 教育施設視察

実施日	視察先	目的	教育委員の感想・意見
R1. 7. 19	子どもの居場所 月の家	子どもの養育環境の向上や児童虐待防止の重要性が高まる中、これまでの要支援児童健全育成事業の成果や課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「月の家」では家庭的な雰囲気の中で、子どもたちが勉強や遊びに励んでおり、施設職員との信頼関係やもうひとつの家にいるような安心感を持ちながら、活動できていることがわかった。 ・居場所として、また、子どもたちが基本的な生活習慣を学ぶ場として「月の家」は非常に大きな役割を担っている施設であると改めて感じた。
R1. 11. 12	プログラミングの公開授業 (戸祭小学校)	令和2年度から小学校でプログラミング教育が必修化される中、公開授業の視察を通してプログラミング教育についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではロボットカーやタブレット端末、点滅ライトなど様々な教材を用いながら、日常生活においてプログラミングが密接に関わっていることを学んでいた。 ・研究授業には他校からも約200人の先生方が参加しており、令和2年度からの小学校での必修化に向けて、着実に準備が進んでいると感じた。

R2. 1. 17	宇都宮美術館	平成9年の開館から20年以上が経過し、空調や照明設備の老朽化や収蔵庫の狭隘化が進んでおり、施設の視察を通して、その現状や課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の芸術文化活動の拠点施設として、様々なコレクション展や企画展を実施しており、美術作品の保管や鑑賞環境の維持・向上が図れるよう、計画的に施設整備を実施することの必要性を改めて認識した。 ・展示事業の他にも、様々な事業に取り組んでおり、特に、教育普及事業として、学芸員が市内の小・中・高校に向向く出前事業や、小・中学校を対象とした美術館訪問鑑賞会を実施するなど、子ども達と美術作品を繋ぐための工夫がなされていた。
-----------	--------	--	--



プログラミングの公開授業（戸祭小学校）



宇都宮美術館

イ 教育懇談会

実施日	内容・参加者	テーマ・目的	教育委員の感想・意見
H30. 8. 21	<p>◆内容 教職員とのふれあいティータイムトーク</p> <p>◆参加者 小学校教職員 通常学級担任 日本語指導担当 特別支援学級担任</p>	<p>◆テーマ 多様な児童生徒に応じた指導及び支援上の課題や対応について</p> <p>◆目的 特別な支援が必要な児童生徒や多国籍化する外国人児童生徒など、多様な児童生徒に応じた指導及び支援上の課題や対応について学校現場における実情を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は、子どもたちが授業に集中できるような教室の環境づくりや、焦点を絞った資料の見せ方、子どもたち一人ひとりに応じた教育課程の作成など、様々な工夫をされていた。 ・現場の声として、担任の教員だけではなく、学校全体での共通理解をもって児童生徒一人ひとりが成長できるよう、指導支援を行う必要があること、後進の育成のために、各教員が培った知識やノウハウを引き継いでいけるよう、相互に授業を参観する機会や研修の充実を図ることなどが必要であるとの貴重な意見を伺うことができた。



教職員とのふれあいティータイムトーク

ウ 委員 de サロン（実務担当者との意見交換）

実施日	事務局出席者	内容
H31. 4. 19	教育企画課	平成31年度教育委員会評価の実施について
	学校教育課	平成31年度教科用図書採択事務について
R1. 5. 17	教育企画課	令和元年度教育委員会教育施設視察について
		令和元年度教育委員会と教職員とのふれあいティータイムトークの開催について
		令和元年度教育委員会点検・評価（教育委員会活動）について
R1. 6. 6	教育企画課	新設小学校の校名、校歌・校章の作成の方向性について
R1. 6. 13	局内各課・所	令和元年度教育委員会点検・評価（施策評価）について
R1. 7. 19	教育企画課	令和元年度教育委員会点検・評価（総合評価）について
		総合教育会議のテーマについて
R1. 7. 26	学校教育課	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会委員の委嘱について
R1. 8. 21	教育企画課	広報プランの改定について
	生涯学習課	子どもの家等事業の運営体制等の再構築について
R1. 9. 27	教育企画課	「（仮称）第2次宇都宮市教育委員会広報プラン」素案について
	学校教育課	「宇都宮学」について
R1. 11. 21	学校教育課	令和元年度小・中学校卒業式における教育委員会あいさつについて
R2. 2. 19	教育企画課	令和2年度教育委員会の活動計画について
		（仮称）「宇都宮市職員子育て応援・女性活躍推進アクションプラン」の改定について
		「障がい者活躍推進計画」の策定について
R2. 3. 19	教育企画課	令和2年度教育委員会の活動計画について
		テクノポリスセンター地区新設小学校 校歌・校章作成コンセプトについて
		令和元年度第2回総合教育会議について
	学校教育課	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会の調査状況について
教育委員の感想・意見		
<ul style="list-style-type: none"> 委員 de サロンを利用したの細かな状況説明等により、委員間での共通理解の促進や定例会での時間短縮など円滑な会議の進行に繋がっている。 実務担当者から現在進行中の情報を取り入れることができ、委員としての資質向上に向け、多岐にわたる知見を得ることができた。 		



委員 de サロン

エ 市議会との意見交換

実施日	内容	教育委員の感想・意見
R1. 8. 23	令和元年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書の提出及び報告書に基づく意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会点検・評価報告書の内容をもとに、教育委員会活動などについて報告を行った。 ・意見交換会では、不登校対策や、ICTを活用した教育、子ども家の在り方など多岐に渡り、活発で有意義な意見交換を行うことができた。 ・教育施策に関する方向性を共有できる有意義な場であった。



教育委員会点検・評価報告書の提出



市議会との意見交換

オ 総合教育会議

実施日	内容	教育委員の感想・意見
R1. 9. 27	今後の情報化の推進について ～学校現場における情報化への展望～	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場における情報化への取組状況や今後の方向性について、市長と教育委員の共通認識を図った。 ・校務の一層の効率化やシステム化、また、様々な授業で効果的にICT機器を活用できるよう、環境整備に取り組むとともに、子どもたちが、主体的にICT機器を利活用できるよう、情報教育のさらなる充実に向けて、市長部局と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認した。

R2. 3. 27	令和2年度教育委員会基本方針（素案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度教育委員会基本方針（素案）について、市長へ説明を行い、共通理解を図った。 ・特に力を入れて取り組みたいものとして、家庭と地域の教育力の向上、文化行政の充実、学校・家庭・地域の間での協力的な体制づくり、体力の向上などについて、意見交換を行った。 ・上記の他、新型コロナウイルスへの教育委員会の対応状況についても情報共有し、市長部局と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認した。
-----------	------------------------	---



第1回総合教育会議



第2回総合教育会議

カ 委員研修等

◆事務局職員による委員研修

教育施設視察の実施等に向け研修を実施した。

実施日	内容	教育委員の感想・意見
R1. 6. 13	要支援児童健全育成事業（月の家）視察にかかる事前研修	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児童健全育成事業のこれまでの経過や、現状、支援内容について、学ぶことができた。 ・子どもたちの居場所や、保護者の子育ての不安や悩みを軽減するための重要な役割を担っていることを認識した。
R1. 8. 21	青少年自立支援センター「ふらっぷ」の業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりや不登校など自立に困難を抱える青少年の相談窓口となっているふらっぷの取組について研修を行った。 ・ひきこもりには様々な要因があり、一人ひとりに応じた対応が必要であること、また、多くの機関と連携しながら年齢で途切れることのない継続した支援を行う重要性を認識した。
R1. 10. 18	プログラミングの公開授業（戸祭小学校）の視察にかかる事前研修	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育のねらいや、学習を通して育む資質や能力について学ぶことができた。 ・小学校6年間を通し、各教科学習や実際にコンピュータを用いながら、発達段階に応じた体系的な教育が実施されることが確認できた。
R2. 3. 19	国のGIGAスクール構想に対する本市の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末と高速通信環境がもたらす学びの変容や、本市の対応について研修を行った。 ・高速大容量ネットワークの構築や、教員のスキル向上のためのフォローアップ計画の作成など、実現には多くの課題があることも認識した。

◆教育委員が出席した総会・研修会など

- ・R1. 5. 21 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ・R1. 5. 31 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会
- ・R1. 5. 27 栃木県市町村教育委員会連合会総会
- ・R1. 10. 16 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ・R1. 11. 6 栃木県市町村教育委員会連合会総会・研修会
- ・R2. 2. 21 市町村教育委員研究協議会（文部科学省研修会）

キ 教育委員による自主活動など

教育委員会会議や視察、意見交換会などのほかに、教育委員が個別に行った活動については以下のとおりである。

◆学校関係の活動

- ・市内学校への訪問（研究授業参観、校長・副校長との面談、教職員等との意見交換等）
- ・土曜授業や運動会、体育祭、文化祭、入学式など学校行事の参観
- ・市PTA連合会や魅力ある学校づくり地域協議会、宮っ子ステーション等の会議出席
- ・特別支援学級 合同運動会、合同収穫祭、合同学習発表会への参加
- ・放課後子ども教室への参加、PTA活動への参加、弁護士と教育関係者の懇談会を開催

◆地域の活動

- ・地区の行事、環境点検などへの参加
- ・放課後活動指導者研修会、少年指導委員研修会、青少年育成活動への参加
- ・地域リーダースクラブ活動への参観、放課後子ども教室コーディネーターとの意見交換
- ・登校時の立哨活動 など

◆イベント・行事への参加

- ・食育フェア、うつのみや人づくりフォーラム、うつのみやマラソン、とちぎ県民カレッジ、自然体験活動指導者研修、ジュニア・ロースクール など

2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感

- ・教育委員会活動の開催回数は妥当であり、教育施設視察などの活動日についても、教育委員会定例会の日程と合わせて開催することで効率的な活動ができています。
- ・必要な案件については、あらかじめ委員 de サロンにおいて事務局との意見交換を実施することで、委員間での共通理解の促進や定例会での時間短縮など円滑な会議の進行に繋がっている。
- ・委員 de サロンでの意見交換や細かな状況説明を通して、実務担当者から現在進行中の情報を取り入れることができ、委員としての資質向上に向け、多岐に渡る情報を得ることができた。
- ・教育施設の視察を通して、教育現場の状況を肌で感じ、直接現場の声を吸い上げることで課題や工夫に気付くことができた。子ども達の学びの場はもとより、生涯学習・教育の視点から施設見学を取り入れていくことより大局的に宇都宮市の教育を捉えることができた。
- ・教職員とのふれあいティータイムトークでは、学校現場における課題や取組などの率直な意見を伺うことができた。
- ・教職員に限らず様々な教育関係者との懇談の機会の確保や、視察や懇談会後の振り返りとして委員と担当者との意見交換の場の確保等により、教育委員会活動が更に有意義な活動となるよう努めていきたい。

～第4章 教育委員会施策～

本市で実施している行政評価を活用しながら、第6次総合計画基本計画の体系に掲げた4つの基本施策を構成する16の施策ごとの評価を実施する。

【基本施策・施策】

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

- 施策（1）成長の基盤となる知・徳・体の育成
- 施策（2）未来を生き抜く力の育成
- 施策（3）地域とともにある学校づくりの推進
- 施策（4）教育環境の充実
- 施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進
- 施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上
- 施策（7）幼児教育の推進
- 施策（8）高校、高等教育の充実・支援

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

- 施策（1）自己を磨き社会を支える学習の推進
- 施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実
- 施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

- 施策（1）ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進
- 施策（2）スポーツ活動環境の充実
- 施策（3）スポーツを支える人材の育成，団体の活性化

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

- 施策（1）文化活動の充実
- 施策（2）文化の創造・継承，保存・活用

<参考：施策指標の評価及び総合評価>

区分	A（25点）	B（20点）	C（15点）
①施策指標の達成度	100%以上	70～100%未満	70%未満
②市民満足度（意識調査結果対基準値（H29））	向上（+5pt以上）	維持（±5pt未満）	低下（-5pt以下）
③主要な構成事業の進捗状況	計画以上 （構成事業2事業以上が計画以上）	計画通り （主に構成事業4事業以上が計画どおり）	計画より遅れ （構成事業2事業以上が計画より遅れ）

総合評価	順調 （90点以上）	概ね順調 （75～90点未満）	やや遅れ （75点未満）
	A評価が2つ以上 （C評価がある場合を除く）	主にB評価が3つ以上	C評価が2つ以上 （A評価が2つある場合を除く）

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

施策(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成

施策目標		知・徳・体のバランスのとれた力や、生涯にわたって学び続ける意欲・態度を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。					
施策指標	産出指標	全小中学校からの教育長奨励賞の申請人数(延べ人数)			令和元年度		評価
					目標値	9,056人	
					実績値	8,990人	
		基準値(H28)	2,018人	目標値(R4)	17,568人	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した中学3年生の割合(学習と生活についてのアンケート)			目標値	87.2%	A
			実績値	88.4%			
基準値(H28)		85.7%	目標値(R4)	88.7%	達成度	101.4%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
市民満足度(基準値(H29)比)		36.4% (-2.6pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業	
施策の評価・分析		<p>平成24年度から「宮っ子心の教育」を推進し、児童生徒の自尊感情や自己肯定感の育成を目指し、学校・家庭・地域が連携して、児童生徒のよい取組を認め励ます教育に努めてきたことにより、「宮っ子心の教育表彰」における教育長奨励賞の申請人数が順調に増加している。</p> <p>各学校が「認め励ます教育」の推進とともに、たくましさの涵養に努めたことにより、児童生徒が自己の可能性を信じ、つらいことでもがまんしてやろうと回答した割合が増加している。</p>					
総合評価		概ね順調(B評価が3つ以上)					
今後の施策の取組方針	課題	<p>児童生徒が、変化の激しいこれからの社会を力強く生き抜くことができるよう、知・徳・体のバランスのとれた力や生涯にわたって学び続ける意欲・態度等を身に付けさせるためには、新学習指導要領において求められる「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善など、その趣旨の具現化に努めるとともに、キャリア教育の一層の推進や、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳教育の充実を図る必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響による学校休業の際においても、児童生徒の学習機会を確保する取組が必要である。さらに、市民満足度において、約37%の市民が「わからない」と回答していることを踏まえ、取組を広く周知する必要がある。</p> <p>文化、体育関係各種大会参加に対する補助など、引き続き、児童生徒の豊かな学びや健康の増進及び体力の向上を支えるための支援に努めていく必要がある。</p> <p>児童生徒が、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高めていけるよう、平成29年度に「体力の向上」、「学校保健」、「食育」、「学校安全」の4つの分野を一体的に捉え策定した「宇都宮市小中学校健康教育推進計画」を推進することにより、自己の体力・健康を主体的に管理できる能力を育成する必要がある。</p>					

	取組の 方向性	<p>本市が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて独自に提案している「宇都宮モデル」や、児童生徒1人1台端末の積極的な活用などにより授業改善を図るとともに、学習機会の確保に努める。また、自己肯定感やたくましさ、望ましい勤労観等を育むため、「宮っ子心の教育」における本市独自の表彰制度の活用や、「宮・未来キャリア教育」における宮っ子チャレンジウィークの着実な実施や、キャリアパスポートの活用などを通して、取組の一層の充実に努める。市民満足度の満足度の向上に向け、教育委員会だよりや広報紙などを活用し、広く周知を図る。</p> <p>文化、体育関係補助金を継続して交付することにより、教育としての文化、体育活動の一層の推進を図る。</p> <p>健康で安全に生活するための知識や技能を着実に身に付けられるよう、学校の教育活動全体を通じた指導を行う。また、身に付けた知識や技能を日常生活で活かすことができるよう、家庭・地域等と更なる連携を図る。</p>
--	--------------------	---

施策（2）未来を生き抜く力の育成

施策目標		これからのより良い社会の創造に必要な資質能力を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。						
施策指標	産出指標	授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合				令和元年度		評価
		目標値		76.7%		A		
		実績値		84.0%				
		基準値 (H28)	68.0%	目標値 (R4)	85.46%	達成度	109.5%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合				目標値		B
48.0%		実績値		45.1%				
基準値 (H28)		40.0%	目標値 (R4)	60.0%	達成度	93.9%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		28.8% (+3.0pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
			計画以上0事業	計画通り4事業	計画より遅れ0事業			
施策の評価・分析		<p>これまで、教員の英語指導力向上を図るため、中学校英語科教員全員を対象とした英語のみを使用する研修を実施していることなどにより、授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合は、単年度目標値を上回る結果となった。また、児童生徒が、英語によるコミュニケーション能力を確実に身に付けることができるよう、平成30年度には外国語指導助手（ALT）を8名増員し、46名体制による指導の充実を図ったことなどにより、CEFR A1^(※1)程度以上の英語力を有する中学3年生の割合は、全国平均を上回る水準を維持している。</p>						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の取組方針	課題	<p>これからのグローバル社会で求められる、英語によるコミュニケーション能力の向上や、郷土への愛情と誇りの醸成を図るためには、児童生徒が授業時間外においても英語に触れることができる機会の充実や、新たに導入した「宇都宮学」を着実に推進することが必要である。また、令和2年度から小学校において必修化されたプログラミング教育を円滑に推進するにあたっては、教員の指導力向上が欠かせないことから、教員研修の充実等に努めることが不可欠である。また、国が新たに推進するGIGAスクール構想^(※2)に対応する取組の推進が必要である。</p> <p>小中学生のスマホ等の所持率は年々増加傾向にあることから、児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るための対策を強化するとともに、情報モラルの育成を図る必要がある。</p>						

(※1) CEFR A1

外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠。外国語運用能力の評価等のために、2001年に欧州評議会が発表したもので、外国語の学習者がどのレベルまで習得しているかを判定する際の国際的なガイドラインとして、現在、広く用いられている。「A1」が英検3級程度。「CEFR」は「Common European Framework of Reference for Languages」の略。

(※2) GIGAスクール構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する構想。GIGAスクール構想の「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for ALL」の略。

	<p>取組の 方向性</p>	<p>本市児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を確実に育成するため、中学校英語教員全員を対象とし、外国語指導助手（ALT）を活用した英語のみを使用する研修や、学校における外国語指導助手（ALT）を活用した職員研修を実施することにより、教員の指導力向上に努めるとともに、イングリッシュキャンプ（小学5・6年生及び中学校2・3年生対象の2回）及び放課後等における英会話教室等を実施（朝や昼休みの絵本の読み聞かせ、放課後子ども教室における英会話等を含め、各校の実情に合わせて実施）することにより、外国語指導助手（ALT）を活用した授業時間外の取組の充実を図る。また、宇都宮学の推進にあたっては、小学校における確実な実施に努めるとともに、本市の魅力を余すことなく掲載できるよう、庁内関係課等との連携を図り中学校版副読本を作成し、教員対象の研修会を開催するなど、円滑な実施に努めていく。</p> <p>令和2年度から小学校で必修化されるプログラミング教育への対応として、「第2次宇都宮市学校ICT化推進基本計画」に基づき、プログラミング教育を推進する。また、研修等により教職員のICT活用指導力の一層の向上を図るとともに、児童生徒1人1台端末の積極的な活用によりICTを効果的に活用した授業を推進する。</p> <p>児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るため、令和2年度より外部有識者（専門事業者を含む）による講話を全小中学校で実施する。また、児童生徒がスマホ等を所持・利用していることを前提とした指導を検討するとともに、「宮っ子ルール共同宣言」の見直しと併せて「宮っ子ノーケータイアピール」を見直す。</p>
--	--------------------	--

施策（3）地域とともにある学校づくりの推進

施策目標		学校が主体性と独自性のある経営を行うとともに、地域の教育力を生かした学校づくりが推進されています。						
施策指標	産出指標	「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数				令和元年度		評価
						目標値	915 件	
		実績値	1,044 件					
		基準値 (H28)	909 件	目標値 (R4)	924 件	達成度	114.1%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）				目標値	95.0%	B
						実績値	92.5%	
		基準値 (H28)	94.4%	目標値 (R4)	95.0%	達成度	97.3%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		32.7% (-1.6pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
		計画以上 0 事業	計画通り 5 事業	計画より遅れ 0 事業				
施策の評価・分析		学校支援機能を持つ地域学校協働本部と、学校運営参画機能を持つ学校運営協議会の機能を併せ持つ「魅力ある学校づくり地域協議会」を全小中学校に設置するなど、地域とともにある学校づくりを推進してきたところであり、学校と家庭、地域、企業の連携の基盤が醸成され、単年度指標が概ね目標水準になっている。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の施策の取組方針	課題	<p>施策指標の『「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数』については順調に伸びているものの、引き続き、地域とともにある学校づくりを学校と地域が連携・協働して進めていくため、学校教育支援活動数の拡大を図っていく必要がある。</p> <p>平成30年度末に、第2次宇都宮市学校教育推進計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダードの内容を踏まえ、学校マネジメントシステムにおける全体アンケート項目の全面的な見直しを行ったため、結果の分析を適切に行い、保護者や地域等から信頼される学校づくりに向け、更なる改善に努めていく必要がある。</p> <p>地域の教育力を生かした教育活動をより一層推進するため、各学校の取組を広く周知する必要がある。</p> <p>各学校や地域学校園が裁量を生かしながら、小中一貫教育カリキュラムの充実や、地域の教育力を有効に活用した教育活動を着実に推進することができるよう、各地域学校園における効果的な取組について広く周知していく必要がある。</p>						

	取組の 方向性	<p>平成30年度末に一部改正を行った「宇都宮市立学校の管理運営に関する規則」に基づき、魅力ある学校づくり地域協議会の学校運営参画機能の着実な強化を進めながら、より多くの学校教育への支援活動数の拡大を図っていくため、教育委員会だよりや広報紙などを活用し、周知・啓発に努める。</p> <p>本市すべての小中学校が、保護者や地域等から信頼される学校となるよう、学校マネジメントシステムにおける新たなアンケート項目の趣旨等の周知を継続して行うとともに、本システムを積極的に活用することを通して、学校経営の改善に努める。</p> <p>魅力ある学校づくり地域協議会を活用し、希望する全ての中学生を対象とした学習支援（地域未来塾）を推進するため、事業の周知・啓発を行うとともに、整備した学習支援に係る人材バンクの効果的な運用やモデル事業の実施など、地域未来塾の導入推進に向けた活動支援に取り組んでいく。また、「街の先生」等の一層の活用推進により、学校における教育活動の充実に努める。</p> <p>各地域学校園において、児童生徒の学力保障や学校生活適応支援等に向け着実な取組を進めるとともに、担当教員対象の研修会等において広く周知することにより、全市的な水準の向上を図る。</p>
--	--------------------	--

施策（4）教育環境の充実

施策目標		児童生徒が、充実した学習環境の下、安心して学校生活を送ることができるよう、安全で快適な教育環境が整っています。						
施策指標	産出指標	学校トイレの洋式化率				令和元年度		評価
		目標値		49.9%		A		
		実績値		55.0%				
		基準値 (H28)	38.2%	目標値 (R4)	57.0%		達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」と回答した中学3年生の割合				目標値	66.0%	A
実績値		70.7%						
基準値 (H28)		60.3%	目標値 (R4)	75.0%	達成度	107.1%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		28.8% (-1.9pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業		
施策の 評価・分析		<p>校舎のトイレに加え、体育館のトイレについても改修工事を実施するなど、学校トイレの環境改善に積極的に取り組んだことにより、学校トイレの洋式化率は単年度目標値を上回っている。</p> <p>また、ICTを活用した授業を実践するため、タブレット型パソコンの計画的な導入に取り組んでいるところであるが、論理的思考力を高めるプログラミング教育などのICTを活用した学習活動の充実が期待されていると考えられる。</p>						
総合評価		順調（A評価が2つ以上）						
今後の 取組方針	課題	<p>老朽化が進行している学校施設については、安全面への配慮やより良い教育環境の確保等が求められており、限られた財源の中で計画的・効率的な整備を行っていく必要がある。</p> <p>また、授業においてタブレット型PCを協働学習等に活用してきたが、今後、国が示す「GIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末環境を整備し、新学習指導要領の学びの実現や個別最適化等の新たな学び方への転換を図る必要があるとともに、災害や感染症等の際の学校休業への備えとしてオンライン授業の導入など様々な工夫が求められており、学校ICT化の一層の推進が必要である。</p>						
	取組の 方向性	<p>学校施設の整備については、令和元年度に策定した「学校施設長寿命化計画」に基づき、トータルコストの縮減や事業費の平準化を図りながら、建物の安全性の確保や施設機能の回復等に着実に取り組んでいく。</p> <p>また、「GIGAスクール構想」の実現に向け、国の補正予算を活用し、小中学校全学年分の1人1台端末と高速大容量の校内通信ネットワークの一体的な整備に速やかに取り組むとともに、新たな災害や感染症の発生時にも、継続的に学びを保障できるよう、端末の家庭への持ち帰りなどの活用手法についても柔軟に検討する。</p>						

施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進

施策目標		様々な特性及び状態にある児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた指導・支援を推進しています。						
施策指標	産出指標	特別支援教育の推進において、一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教員の割合				令和元年度		評価
		目標値		98.0%		B		
		実績値		97.9%				
		基準値 (H28)	95.9%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	99.9%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「私は今の学校が好きです。」と回答した児童生徒の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）				目標値		B
実績値		88.4%						
基準値 (H28)		91.8%	目標値 (R4)	93.0%	達成度	95.7%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		23.0% (+0.2pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業		
施策の評価・分析		特別支援教育に係る教職員研修の実施や、学校からの要請による学校生活適応支援アドバイザー等の学校訪問相談の実施により、児童生徒の実態に応じた指導を行っている教員の割合がやや増加した。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の施策の取組方針	課題	<p>特別な支援を必要とする児童生徒が自信と意欲をもって学校生活を送れるよう、教員の指導力向上や学級経営力の向上を図っていく必要がある。特に、新任特別支援学級担当教員等の指導力向上に係る対応を強化する必要がある。</p> <p>不登校数の減少に向けて、不登校を生まない学級経営づくりや初期段階からの組織的な対応の充実を図るとともに、不登校改善のため、児童生徒の個々の状況に合わせたきめ細かな支援を行う必要がある。</p> <p>いじめの未然防止や早期発見・早期対応に引き続き取り組むとともに、初期段階において迅速に組織的に対応していく必要がある。</p> <p>平成24年度以降、本市においては日本語指導が必要な児童生徒数はほぼ横ばいだが、使用言語の多様化や個に応じた指導の充実を図る必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>会計年度任用職員（学校生活適応支援アドバイス業務）（旧：アドバイザー）等による学校訪問や、ベテラン教員の授業動画を効果的に活用した研修の実施により、新任特別支援学級担当教員等の指導力や学級経営力の向上を図るとともに、テレビ会議システムやZOOMを活用し、各校におけるOJTを推進していく。</p> <p>教職員研修等において、児童生徒基礎調査や不登校対策の手引書を活用した学級経営の在り方について周知する。また、指導主事等による学校訪問の機会等を捉えて具体的な指導・助言を行うとともに、別室登校支援やスクールカウンセラー・メンタルサポーターの有効活用など、児童生徒の個々の状況に応じた支援が行えるよう、学校の不登校対応力の向上を図る。</p> <p>児童生徒主体のいじめ根絶集会の開催や、年4回以上のいじめアンケート実施など、いじめの未然防止や早期発見に取り組む。また、いじめを原因として不登校事案が発生した場合には、学校は速やかに市教委に報告し、市教委と連携しながら問題解決を図り、不登校重大事態（目安：欠席30日）の発生を防止する。</p> <p>外国人児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導を行うため、第3次外国人児童生徒教育推進計画に基づき、初期日本語指導教室の充実や、日本語指導者の効果的な派遣、研修による指導者の専門性の向上を図る。</p>						

施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上

施策目標		教職員の資質・能力の向上に取り組むとともに、豊富な人材を活用し学校の組織力の向上を推進しています。						
施策指標	産出指標	研究授業を年間4回以上実施した小中学校の割合				令和元年度		評価
						目標値	80.2%	
		実績値	71.3%					
		基準値 (H28)	72.85%	目標値 (R4)	87.0%	達成度	88.9%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「教職員は、分かる授業や児童（生徒）にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合				目標値	88.3%	A
実績値						88.5%		
基準値 (H28)		86.65%	目標値 (R4)	90.0%	達成度	100.2%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	22.5% (-2.1pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B		
		計画以上0事業			計画通り5事業		計画より遅れ0事業	
施策の 評価・分析		<p>教職員の授業力向上に向けて、校内研修や校内OJTの推進、地域学校園での共通テーマによる学び合いなどを各学校が積極的に行っている。</p> <p>「宇都宮市教職員表彰制度」により、教職員の一層の資質能力と勤務意欲の向上、各学校の組織力の向上を図ったことや、多様な専門スタッフを配置して質の高い教育活動の展開に努めたことなどが、成果指標の実績値が目標値を上回る結果につながっている。</p>						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の 取組方針	課題	<p>教職員の大量退職・大量採用が2025年度まで継続する見通しであり、若手教員の指導力向上や中堅教員の組織マネジメント力の向上を図ることが喫緊の課題であるとともに、新しい時代に対応した教育を推進するための教職員の資質・能力の向上を図ることが必要である。また、限られた人材の中で、教職員一人一人の特性等を生かした適材適所の配置が、これまで以上に求められる。</p> <p>学校における働き方改革が進められる中、教員が児童生徒と向き合う時間を確保しながら、複雑化・多様化した学校教育に関わる課題を解決するためには、教員が担っている業務を見直すとともに、専門スタッフが学校教育に参画して教員と専門スタッフが連携する「チーム学校」体制を構築することが必要であり、専門スタッフの適正な配置と管理職のリーダーシップのより一層の強化が必要である。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる休業期間における未指導分の学習の補習や校内の消毒作業により教職員の負担が増えている。</p>						

	<p>取組の方向性</p>	<p>若手教員に対して指導力向上の研修を段階的に継続して実施するとともに、授業力向上プロジェクトや学級経営力向上プロジェクトを通して校内におけるOJTを促進する。また、令和元年度に立ち上げた学校組織及び教育課程のマネジメントを内容とする「学校運営推進リーダー養成研修」の内容の充実を図り、引き続き30代、40代の教職員の資質・能力の向上を図るとともに、「宇都宮市教職員表彰」において、学校運営に積極的に取り組む中堅教員を取り上げることで、ミドルリーダーの計画的育成と学校運営の活性化を図っていく。</p> <p>教職員人事管理システムのICT化により、教職員の情報の一元化及び効率的な管理を行い、学校の事務負担軽減を図るとともに、学校図書館司書業務や学校栄養士業務等の会計年度任用職員及び、スクールカウンセラーなどの配置を継続し、専門性を生かした質の高い教育活動の推進及び教員が児童生徒と向き合う時間の確保に努める。また、令和元年度より、教員数が少ない小規模校に対して、学校支援事務担当を配置し、担任業務を一部分担させ、学級担任の学級経営及び学習指導の充実を図っている。さらに、平成31年4月に策定した「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」に基づく業務改善の取組を継続的に促進する。全小中学校の管理職を対象に、校長経験のある学校経営支援担当（会計年度任用職員）が学校を訪問し、学校経営等について指導・助言を行うことで管理職のリーダーシップの強化を図る。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応のため、7月に学習指導員25名（県会計年度任用職員）を配置する。</p>
--	----------------------	---

施策（7）幼児教育の推進

施策目標		幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受けています。					
施策指標	産出指標	幼保小連携推進事業（児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等）を実施している学校の割合			令和元年度		評価
		目標値		94.0%			
		実績値		92.6%			
		基準値 (H28)	86.7%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	幼稚園、保育所等に入園している児童（3～5歳）の割合	目標値		98.0%		B
実績値			96.8%				
基準値 (H28)		96.9%	目標値 (R4)	98.0%	達成度	98.8%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.1% (-0.6pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業	
施策の評価・分析		<p>平成29年3月に、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領等が改訂され、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目指し、幼稚園・保育所等の園児と小学校児童との交流活動や、教職員間相互の理解を図るための交流を行う「幼保小連携促進事業」に取り組んでいるが、連携の内容に違いが生じている。</p> <p>また、子ども・子育て支援新制度の施行後は、「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づく計画的な教育・保育サービスにより、幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受ける機会の確保が図られている。</p>					
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）					
今後の施策の取組方針	課題	<p>幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、「幼保小連携促進事業」に取り組んでいるが、連携の内容に違いが生じていることから、教育部門や保育部門、県の幼児教育部門などの部門間での連携を強化しながら、より円滑な接続に向けた取組の強化を図る必要がある。</p> <p>さらには、今後の教育・保育の供給体制の確保を図るため、様々な保育ニーズを適切に捉えながら、ニーズに対応した供給体制を確保する必要がある。</p>					
	取組の方向性	<p>幼児教育と小学校教育のより円滑な接続を図るため、教育部門や保育部門、県の幼児教育部門などの部門間での情報交換や意見交換を十分に行いながら、県の「とちぎの幼小カリキュラム接続プロジェクト」を活用し、職員相互理解を図るための研修会の開催や幼小接続期カリキュラムの検討を行うなど、各幼稚園・保育園等と小学校における幼小連携の取組の強化を図る。</p> <p>また、令和2年3月に改定した「第2期宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、引き続き、教育・保育の供給体制の確保に取り組み、年間を通じた待機児童ゼロの継続的な実現を目指すとともに、良質な保育サービスを提供していく。</p>					

施策（8）高校、高等教育の充実・支援

施策目標		市民が自己実現を図るために必要な、高度で専門的な学習機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	奨学金貸付基準を満たす希望者のうち、貸与を受けられることができた人の割合				令和元年度		評価
		目標値		100.0%		A		
		実績値		100.0%				
		基準値 (H28)	100.0%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	100.0%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	市の提供講義に「満足した」と回答した受講者の割合				目標値	95.0%	B
		実績値		87.0%				
		基準値 (H29)	85.4%	目標値 (R4)	90.0%以上	達成度	91.6%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		25.1% (-0.5pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
		計画以上0事業	計画通り4事業	計画より遅れ0事業				
施策の 評価・分析		<p>「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、これからの高等教育では、SDGs, Society5.0, グローバル化, 少子高齢化といった社会全体の構造の変化など予測困難な時代を迎えるに当たり、多様な価値観や柔軟性を持った人材育成が求められている中、本市においては、「まちづくり」という多様性・柔軟性に富むテーマを高度な知識を持つ市職員が講師となり、実践的な学びの場を提供している。</p> <p>貧困が世代を超えて親から子へと受け継がれてしまう貧困の連鎖などの社会問題に対し、本市においては、奨学金貸付基準を満たす希望者全てに奨学金の貸付を行っており、貸付を必要としている者に対する修学機会の確保が図られている。</p>						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の 取組方針	課題	<p>令和2年度から国の給付型奨学金制度や県の高校生等奨学給付金が拡充される中、市民ニーズや本市における貸付者の推移、他市状況を踏まえて適宜制度の見直しを行う必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活が困窮し、学業継続が困難な学生に対して、一定の支援は必要であるが、国や大学等が様々な支援策を講じている中、市としてどのような支援を講じる必要があるのか、検討していく必要がある。</p> <p>市提供講義については、大学生をはじめ、高校生以上の宇都宮市民を対象としており、幅広い年齢層や多様なニーズに対応していくため、各種講義の内容の充実を図るとともに、感染症拡大防止の観点からICTを活用したメディア講義など、大学の新たな講義方法にも対応しながら、引き続き、大学との連携による専門性の高い講義を提供していく必要がある。</p>						

	取組の 方向性	<p>学習意欲のある若者たちが今後も家庭の経済状況に左右されることなく修学できるよう、国・県等の動向を踏まえながら、対象者への奨学金制度の検討を行う。</p> <p>また、令和元年度から貸し付け対象の拡充（大学院生）を行ったほか、令和2年度から返還者の利便性向上のためコンビニ収納を導入したことから、制度の更なる周知を図る。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生に対しては、緊急に学費や生活費が必要となる学生を支援するため、家計が急変した場合に、緊急に学費や生活費が借りられるよう、急変後の収入を貸付要件とするとともに、失業等に加え就労中であっても収入の減少を要件に返還を猶予する弾力的な運用を行うとともに、大学の授業料の納付期限の到来、親元を離れての学生の生活再開に伴う生活費の発生等をきっかけとした支援のニーズが高まったときに、迅速かつ効果的な支援策を講じていけるよう、国・県の動向や、大学等と連携し学生からの相談状況を把握するとともに、学生生活及び経済状況の回復状況などを注視しながら検討を継続していく。</p> <p>市提供講義については、高度で専門的な学習を希望する大学生や市民に対して、魅力的な講義となるよう受講生や担当部局の意見を聞きながら、講義内容の充実を図る。</p>
--	--------------------	---

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

施策(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進

施策目標		一人一人が自己の実現や生活の向上，地域社会の発展に向けて主体的に学ぶ機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				令和元年度		評価
						目標値	325 講座	
		実績値	321 講座					
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座	達成度	98.8%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を踏まえて設定					
	成果指標	生涯学習センターや図書館等の利用者数				目標値	1,777 千人	B
実績値						1,754 千人		
基準値 (H28)		1,762 千人	目標値 (R4)	1,800 千人	達成度	98.7%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.1% (+1.7pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
			計画以上 0 事業	計画通り 5 事業	計画より遅れ 0 事業			
施策の評価・分析		令和2年2月末から3月にかけて，新型コロナウイルス感染拡大に伴い多くの事業を中止とし，中でも生涯学習センターの貸館休止，図書館休館の影響が大きく，生涯学習センターや図書館等の利用者数は基準値を下回ったが，講座については，2月まで生涯学習センターや図書館で着実に取り組み，特に図書館において「みや学講座」などに力を入れ，多くの講座を実施したことにより，講座の開催数は単年度の目標値とほぼ同数となった。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の施策の取組方針	課題	<p>今後も新型コロナウイルス感染症への対応により，講座数や利用者数の減少が見込まれるが，事業の実施にあたっては，適切な実施時期や感染症対策などを検討し，市民の学習意欲の喚起や多様な学習機会の提供に取り組んでいく必要がある。</p> <p>社会教育施設として，住民による主体的な活動を支援してするためには，ICT環境の整備など社会情勢に見合った施設環境の整備が必要である。</p> <p>市民意識調査による施策の満足度では，「わからない」とする割合が約47%と高いことから，市民の生涯学習に関する認知度を高める必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>事業の実施にあたっては，栃木県で示している新型コロナウイルス感染症の警戒度や本市の方針を踏まえ，定員の削減や広い部屋の確保，換気の徹底など3密の回避とともにマスク着用や手洗いなどの感染防止策を講じながら取り組んでいく。</p> <p>現在の社会情勢に見合った施設環境の整備については，学習や活動の中で多様な情報を気軽に利用することができるよう，情報機器やWi-Fi環境の整備など，ICT環境の整備を検討する。</p> <p>生涯学習に関する認知度については，幅広い世代に情報を発信していける仕組み作りや，市ホームページにおける事業紹介の充実，「まなびの施設ガイドブック」の配布による施設案内など，様々な周知啓発活動を展開する。</p>						

施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実

施策目標		学校・家庭・地域が互いに連携・協働し、地域全体で学び合い育ち合う教育活動に取り組む環境が整っています。						
施策指標	産出指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動数				令和元年度		評価
		目標値		5,070回		B		
		実績値		4,683回				
		基準値 (H28)	4,353回	目標値 (R4)	6,000回	達成度	92.4%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を踏まえて設定					
	成果指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数				目標値	140,015人	B
実績値		125,399人						
基準値 (H28)		123,358人	目標値 (R4)	165,000人	達成度	89.6%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.1% (-3.8pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上0事業	計画通り4事業	計画より遅れ1事業		
施策の評価・分析		地域未来塾（学習支援） ^(※3) や放課後子ども教室 ^(※4) の実施により、子どもたちの学習支援や体験活動等の教育活動に取り組んでおり、それぞれ実施校区も着実に拡大してきたところだが、令和元年度は一部事業を2月から休止とするなど、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応を講じたため、教育活動数および参加した児童・生徒数はともに単年度目標値に届かなかった。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の取組方針	課題	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業の中止や延期などの対策を講じているが、適切な実施時期や感染症対策などを検討し、できるだけ多くの生徒への学習支援や、放課後児童の体験活動等に取り組んでいく必要がある。</p> <p>家庭の教育力向上については、これまで支援が届きにくかった親への支援など、よりきめ細かな家庭教育支援を推進する必要がある。</p> <p>子どもの家・留守家庭児童会については、今後のさらなる利用児童数の増加に対する適切な実施場所の確保や、令和3年度から導入する指定管理者制度の手続きを着実に進めていく必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>事業の実施にあたっては、感染症の社会的な状況や学校の対応などを踏まえて実施の可否を判断し、適切な感染防止策を講じながら取り組む。</p> <p>きめ細かな家庭教育支援については、これまでの取り組みに加え、さらに関係課の「未就園児（満4歳）全戸訪問」事業と連携することで、より効果的・効率的に対象家庭を把握し、必要な支援へ結びつける。</p> <p>子どもの家・留守家庭児童会については、計画的に実施場所の確保を行うとともに、指定管理者制度の手続きに沿って適切に事業者を選定し、運営委員会との円滑な引継ぎや放課後子ども教室との調整などに取り組む。</p>						

(※3) 地域未来塾

生徒の学習習慣の定着及び家庭学習時間の増加を図るため、家庭の状況にかかわらず、学びたい生徒が学べる仕組みとして、魅力ある学校づくり地域協議会の地域の教育力を生かして中学生を対象に学習支援を行う取組。

(※4) 放課後子ども教室

放課後等における全ての児童（参加希望の児童が対象）の健全育成を図るため、体験活動や異年齢交流活動、学習支援の場を提供することを通して、地域ぐるみで子どもを育む取組。

施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

施策目標		学びを通して、様々な団体や人とのつながりが深まり、学んだ成果を生かして活動する機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				令和元年度		評価
		目標値		325 講座		B		
		実績値		321 講座				
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座		達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を踏まえて設定					
	成果指標	学習活動の支援に関わる活動者数				目標値	682 人	B
		実績値		672 人				
		基準値 (H28)	637 人	目標値 (R4)	750 人	達成度	98.5%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		23.8% (+0.6pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上 0 事業	計画通り 5 事業	計画より遅れ 0 事業		
施策の 評価・分析		令和2年2月末から、新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業の中止や図書館の一時休館などの対応が続いた中、学習活動の支援に関わる活動者数は減少したが、講座については、2月まで生涯学習センターや図書館で着実に取り組み、特に図書館において「みや学講座」などに力を入れ、多くの講座を実施したことにより、講座の開催数は単年度の目標値とほぼ同数となった。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の 取組方針	課題	<p>今後も新型コロナウイルス感染症への対応により、講座数や活動者数の減少が見込まれるが、事業の実施にあたっては、適切な実施時期や感染症対策などを検討し、市民の学習した成果を活動へとつなげていくことが必要である。</p> <p>市民意識調査において、施策の満足度は増加しているが、「わからない」とする割合は約55%と高いことから、多くの市民に学習から活動までのつながりを意識してもらう必要がある。</p> <p>生涯学習情報提供システム（マナビス）^(※5)については、より使いやすく効果的なシステムにするとともに、市民への積極的な周知に取り組む必要がある。</p>						
	取組の 方向性	<p>事業の実施にあたっては、栃木県で示している新型コロナウイルス感染症の警戒度や本市の方針を踏まえ、広い部屋の確保や換気の徹底など3密の回避とともに、マスク着用や手洗いなどの感染防止策を講じながら取り組む。</p> <p>学習から活動までの意識については、令和元年度から開始した市民自主講座の開催を支援する「宮の学び人レクチャー」の拡充等を検討することで、より多くの市民に学んだ成果を活動に生かす意識を醸成できるよう取り組む。</p> <p>マナビスについては、システムの更新に着手しており、操作性や利便性向上などのシステム内容を検討していくとともに、システムの積極的な周知に取り組む。</p>						

(※5) 生涯学習情報提供システム（マナビス）

生涯学習関連情報である、講座情報、イベント情報、施設情報、団体情報、講師情報などを、インターネットにより提供している生涯学習情報提供システム。

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

施策(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進

施策目標		市民の誰もが、それぞれのライフステージや志向に応じて、継続してスポーツを楽しむことができる機会が整っています。						
施策指標	産出指標	地域スポーツクラブがカバーする地域数				令和元年度		評価
		目標値		14 地域		B		
		実績値		10 地域				
		基準値 (H28)	10 地域	目標値 (R4)	30 地域	達成度	71.4%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	地域スポーツクラブ会員数				目標値	5,000 人	B
実績値		3,519 人						
基準値 (H28)		3,336 人	目標値 (R4)	10,000 人	達成度	70.4%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.2% (-0.7pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上 0 事業	計画通り 5 事業	計画より遅れ 0 事業		
施策の評価・分析		市民がライフステージや志向に応じて、継続的にスポーツを楽しむことができるよう、地域スポーツクラブの設立に向けた地域への積極的な支援や、既存スポーツクラブの更なる活性化に向けて、市庁舎でパネル展を実施するなど、広報・PR活動を強化した。こうした中、各地域においては、新型コロナウイルス感染症の影響でクラブ設立に向けた会合などの機会が減り、地域スポーツクラブがカバーする地域数はこれまでと同水準、クラブ会員数は前年度から微減となった。						
総合評価		概ね順調 (B評価が3つ以上)						
今後の施策の取組方針	課題	地域のスポーツ活動の支援に向け、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、既存の地域スポーツクラブの更なる活性化を図るとともに、クラブ未設置地域に対しても、設置に向けて積極的な働きかけを行う必要がある。 また、子どもから高齢者まで気軽にできるニュースポーツ ^(※6) についても、更なる普及促進に向けて取り組む必要がある。						
	取組の方向性	幅広い世代が身近にスポーツに親しめるよう、地域スポーツクラブの取組を広くPRするほか、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、地域スポーツクラブ連絡協議会 ^(※7) による連携事業などを実施し、クラブ間の交流・情報交換を促進する。また、未設置地域に対しては、まちづくり協議会などの関係団体へ既存クラブの活動紹介や設立に係るスケジュール等の説明を行うなど、クラブ設立に向けた機運が醸成されるよう積極的に働きかけを行う。 幅広い世代のスポーツ活動のきっかけとなるニュースポーツの普及促進に向けて、用具の無料貸出しの情報を様々な媒体を活用し、効果的に発信するとともに、スポーツ推進委員会 ^(※8) などと連携しながら、周知・PRに取り組む。						

(※6) ニュースポーツ

「ペタンク」や「グランドゴルフ」など、勝ち負けよりも楽しむことを目的とした子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした新しい形のスポーツ。

(※7) 地域スポーツクラブ連絡協議会

市内全8つの地域スポーツクラブで構成され、クラブ間の連絡・協力体制の確立を通して、クラブの育成・定着・発展に取り組む組織

(※8) スポーツ推進委員会

地域スポーツのリーダーとして、各小学校区域や競技団体から選出されたスポーツ推進委員109名で構成され、各種事業を通じて本市のスポーツ振興に取り組む組織

施策（2）スポーツ活動環境の充実

施策目標		スポーツを体験したり，観たりする機会やスポーツ活動の成果を試す場，スポーツに適した施設等が整っています。							
施策指標	産出指標	スポーツ教室の参加者数				令和元年度		評価	
		目標値		49,438人		実績値			B
		実績値		44,927人		達成度			
		達成度		90.9%		目標値 (R4)			
	基準値 (H28)		49,066人		50,000人		これまでの実績を参考に設定		
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
	成果指標	体育館（競技場，ホール・多目的室，武道場）の稼働率				目標値		B	
		実績値		79.61%		達成度			
達成度		72.40%		目標値 (R4)					
目標値		76.71%		84.00%					
基準値 (H28)		76.71%		84.00%		これまでの実績を参考に設定			
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定							
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.9% (+0.8pt)	B	主要な構成事業の進捗状況				B	
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業			
施策の 評価・分析		<p>多様化する市民のスポーツニーズに対応できるよう，様々なスポーツ教室を開催し，スポーツを体験できる場を提供したほか，スポーツを観戦する機会の創出やスポーツ活動の成果を表す場となる3x3ワールドツアーうつのみやファイナル等の実施，スポーツに適した施設等の整備など，スポーツ活動環境の充実に取り組んできた。こうした中，新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ教室を一部中止したことや体育館の稼働等を制限したこともあり，スポーツ教室の参加者数や体育館の稼働率は目標値に達しなかった。</p>							
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）							
今後の 取組方針	課題	<p>新型コロナウイルス感染症の対策により，スポーツを行う機会が減少したことを踏まえ，体力低下などに対応したスポーツ教室を実施していく必要がある。また，ビックスポーツイベントによる機運の高まりにも応えられるよう，スポーツ施設の適正配置や市民ニーズを捉えた施設整備を進めるとともに，施設を適切かつ効果的に管理運営し，スポーツ活動の場を安定的に提供する必要がある。</p> <p>市民やスポーツ団体の競技力の向上につながるよう，スポーツ大会参加への支援を行うなど，日ごろのスポーツ活動を継続的に支えていく必要がある。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら，トップレベルのプロスポーツの観戦機会を創出し，市民のスポーツに対する興味・関心の高揚やスポーツ活動の動機づけ，スポーツを楽しむきっかけづくりを提供する必要がある。</p>							
	取組の 方向性	<p>スポーツ活動環境の更なる充実に向け，新型コロナウイルスの影響による市民のスポーツ離れや体力低下などを考慮しながら，関係団体と連携し，各種スポーツ教室の開催や，施設の老朽化等の状況や新たなスポーツニーズにも配慮しながら，宮原運動公園の再整備や北西部地域への体育施設整備等を推進するとともに，指定管理者制度を活用し，更なるサービスの向上や効果的な管理運営による経費削減を図る。</p> <p>全国大会出場者や応援団等に対する遠征費用の補助などに取り組む。</p> <p>本市をホームタウンとするプロスポーツチームへの支援やプロ野球の開催誘致などに取り組み，市民のスポーツ活動への動機づけや，参加促進，競技力向上を支援する。</p>							

施策（3）スポーツを支える人材の育成・団体の活性化

施策目標		指導者の資質向上や活用が促進されるとともに、スポーツ関係団体やプロスポーツチームが活発に活動できる環境が整っています。						
施策指標	産出指標	スポーツ指導者研修の受講者数				令和元年度		評価
						目標値	732人	
		実績値	642人					
		基準値 (H28)	688人	目標値 (R4)	800人	達成度	87.7%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	スポーツ少年団1団体当たりの平均指導者数				目標値	5.39人	B
実績値						4.11人		
基準値 (H29)		5.21人	目標値 (R4)	5.67人	達成度	76.3%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		27.7% (+0.7pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
			計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業			
施策の 評価・分析		市民の多様化するスポーツ活動を継続・安定的に支援できるよう、スポーツ推進委員会において実技研修や応急手当講習会を開催するなど、スポーツ指導者の更なる資質向上を図り、研修受講者数は前年度から増加した。また、市スポーツ協会等のスポーツ関係団体や本市をホームタウンとするプロスポーツチームの活動支援に取り組んだ。						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の 取組方針	課題	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視ながら、市民の多様化するスポーツ活動を継続的かつ安定的に支援できるよう、安全・安心なスポーツ活動に資する研修等の実施により、スポーツ指導者の資質の向上を図るなど、スポーツを支える人材を発掘・育成する必要がある。</p> <p>市民のスポーツに対する興味・関心の高揚やスポーツを楽しむきっかけづくりに向けて、地域に根差したスポーツ関係団体やプロスポーツチームが活発に活動できるよう効果的な支援を行う必要がある。</p>						
	取組の 方向性	<p>市民のスポーツ活動を安定的に支援するため、スポーツ指導者が必要な知識・スキルを習得できるよう、地域のスポーツ振興の中心的な役割を担う「スポーツ推進委員」や、少年スポーツ振興の中心的な役割を担う「少年スポーツ指導員」に対し、オンラインや既存媒体を活用した資料や映像配信など、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを受けにくい手法による研修を検討していく。</p> <p>新型コロナウイルスの影響による市民のスポーツ離れや体力低下などの状況を踏まえ、スポーツの普及や振興に寄与する市スポーツ協会やスポーツ振興財団の活性化に向け、継続的な支援や連携した事業を展開していくとともに、プロスポーツチームが魅力的な地域資源として経済的、社会的、教育的効果を十分に発揮できるよう、各チームの意向の把握に努めながら、施設の整備・維持管理や広報活動などの支援に取り組む。</p>						

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

施策(1) 文化活動の充実

施策目標		市民が主体的に文化活動に取り組めるよう、文化鑑賞や活動ができる環境や人材・団体育成の支援体制が整っています。						
施策指標	産出指標	文化芸術事業の参加者・観覧者数				令和元年度		評価
						目標値	350,000人	
		実績値	370,960人					
		基準値 (H28)	342,725人	目標値 (R4)	360,000人	達成度	105.9%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	文化会館の施設稼働率				目標値	81.0%	B
実績値						76.0%		
基準値 (H26)		78.6%	目標値 (R4)	85.0%	達成度	92.6%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		33.9% (-1.5pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
				計画以上0事業	計画通り5事業	計画より遅れ0事業		
施策の 評価・分析		<p>施策目標の実現に向け、市民芸術祭やジュニア芸術祭の開催のほか、文化会館や美術館を核とした鑑賞事業や教育普及事業などに取り組んでいる。</p> <p>産出指標の文化芸術事業の参加者・観覧者数については、美術館展覧会の観覧者数が好調であったほか、市民芸術祭40周年記念事業の実施により、観覧者が大きく増加したことから、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、全体の参加者数は目標値を上回った。</p> <p>文化会館の施設稼働率については、2月までは目標値の水準で推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月の予約の大半がキャンセルまたは延期となった影響で、全体として目標値を下回った。</p>						
総合評価		概ね順調 (B評価が3つ以上)						
今後の 取組方針	課題	<p>市民や子どもたちが日々の暮らしの中に文化芸術を取り入れ、より豊かで充実した生活を送ることができるようにするため、文化芸術に気軽に触れる場や発表・活動の機会の充実を図るとともに、文化芸術に関する情報発信の充実を図っていく必要がある。</p> <p>本市の文化芸術の創造と発展を図り、次世代に継承していくため、文化芸術に取り組む人材や団体の育成・支援の充実を図っていく必要がある。</p> <p>文化芸術活動の拠点施設である宇都宮美術館の老朽化が進んでおり、特に空調設備等について早急な改修が必要である。また、文化会館についても、引き続き、計画的な施設整備が必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防するため、感染防止に係る各種指針や「新しい生活様式」に沿った取組が求められている。</p>						

	取組の 方向性	<p>「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「文化を身近に感じ、活動できる環境づくりの推進」に向け、市民芸術祭やジュニア芸術祭の一層の活性化を図るほか、文化会館・美術館を拠点とした質の高い芸術文化の鑑賞機会や子どもたちへの教育普及事業を積極的に展開する。また、うつのみや文化創造財団を核とした文化芸術に関する幅広い情報の収集・発信の充実を図る。</p> <p>「文化をつなぐ人材育成の推進」に向け、「宇都宮エスペール賞^(※9)」の選考による次代を担う優れた芸術家の発掘のほか、「宇都宮市文化協会」や「うつのみやジャズのまち委員会」等と連携した市民主体による文化芸術活動の一層の促進を図る。</p> <p>文化芸術活動の拠点施設である美術館や文化会館においては、安全かつ快適な施設環境の維持・向上を図るため、計画的に施設整備を進める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りつつ、本市の文化振興の推進や文化施設の安定的な経営を確保していくため、アフターコロナも視野に入れ、文化芸術事業の実施手法や文化施設の管理・運営方法等について検討していく。</p>
--	--------------------	---

(※9) 宇都宮エスペール賞

文化芸術活動が顕著で、今後の活躍が期待できる本市ゆかりの芸術家に「宇都宮エスペール賞」を授与するとともに、育成金200万円を贈呈し活動支援を行う。受賞者は3年以内に成果発表（宇都宮美術館での展覧会、又は宇都宮市文化会館でのリサイタル）を行う。

施策（2）文化の創造・継承、保存・活用

施策目標		市民が郷土に誇りや愛着を感じ、地域の魅力づくりや絆づくりに生かすことができるよう、文化資源が保存・活用されています。						
施策指標	産出指標	文化資源の周知啓発事業参加者数				令和元年度		評価
						目標値	38,000人	
		実績値	34,773人					
		基準値 (H27)	36,117人	目標値 (R4)	40,000人	達成度	91.5%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	文化財展示施設利用者数				目標値	155,200人	A
実績値						167,069人		
基準値 (H27)		152,001人	目標値 (R4)	178,000人	達成度	107.6%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		27.6% (-1.8pt)	B	主要な構成事業の進捗状況			B	
			計画以上1事業	計画通り4事業	計画より遅れ0事業			
施策の評価・分析		<p>施策目標の実現に向け、飛山城史跡公園など文化財展示施設を拠点とした普及啓発事業のほか、百人一首など本市固有の文化資源の活用事業に取り組んでいる。</p> <p>産出指標の文化資源の周知啓発事業参加者数については、うつのみや百人一首市民大会において「同時にかかる遊びをした最大人数」のギネス世界記録を達成するなど見込みを上回る事業もあったが、台風19号（10月）の影響によるイベント来場者の減少や年度末の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う事業中止や規模縮小により、目標値及び前年度実績値を下回った。</p> <p>成果指標の文化財展示施設利用者数については、同様の理由により前年度実績は下回ったものの、宇都宮城址公園ガイダンス施設やうつのみや遺跡の広場などの来園者が見込みを上回ったことから、単年度目標値を上回った。</p>						
総合評価		概ね順調（B評価が3つ以上）						
今後の施策の取組方針	課題	<p>市民や来訪者が本市の歴史文化について理解を深め興味関心を喚起するとともに、郷土への誇り・愛着の醸成や、認知度・来訪意欲を高めるため、歴史文化資源に関する把握・整理や調査研究を進め、その価値や魅力を導出するとともに、保存・活用や普及啓発、情報発信などの取組を推進していく必要がある。</p> <p>地域固有の歴史文化の価値や魅力を地域の絆づくりや活性化に生かしていくため、地域で育まれた伝統や生活文化を守り伝える団体の育成・支援を推進するほか、本市にゆかりのある歴史文化資源を活かした地域活性化の取組を推進していく必要がある。</p>						

	<p>取組の 方向性</p>	<p>「宇都宮市歴史文化基本構想」及び「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「宇都宮文化の創造・継承」に向け、本市の歴史文化の価値や魅力を紐解く「エイト・ストーリー」の普及啓発や官民連携で構成する「宇都宮市大谷石文化推進協議会」を核として「日本遺産 大谷石文化」の魅力発信の取組を推進するとともに、地域において大切に守り継がれてきた歴史文化資源を市民共有の財産として保存・活用を図るため「宇都宮市民遺産制度」を運用していく。また、市民や子どもたちが本市の歴史文化について理解を深めるため、「宮っ子伝統文化体験教室」や地域への出前講座などの普及啓発を行うとともに、本市の歴史文化の魅力を発信するまちなか情報交流機能について検討を進める。さらに、市内に所在する国指定史跡について、その本質的価値や魅力を高めることにより、郷土への誇りや愛着を醸成し、史跡等を核とするまちづくり・地域づくりを進めていくため、ICTの活用も視野に入れながら、それぞれの状況に応じた整備等を進める。</p> <p>「文化を活かしたまちづくりの推進」に向け、「宇都宮伝統文化連絡協議会」や「宇都宮市文化財ボランティア協議会」と連携し市民主体による歴史文化資源の保存・活用の取組を推進する。また、本市ゆかりの文化資源である「百人一首」を活かした「百人一首市民大会」などの開催のほか、「ジャズ」を核とした音楽の振興を図るための「学校普及ジャズ」や、全国的にも稀有な「うつのみや妖精ミュージアム」において妖精資料を活用した企画展等を開催するなど、本市ならではの取組を推進する。</p>
--	--------------------	---

～第5章 広報・広聴活動～

1 広報活動

◆「教育委員会だより 第20号」の発行（令和2年2月）

【配布先】 保育園～高等学校までの全ての学校，自治会回覧，各公共施設

【内容】

宇都宮市の教育や子どもたちを支える人たちを紹介します！

- ・ALT（外国語指導助手）や学校業務機動班嘱託員，
魅力ある学校づくり地域協議会地域コーディネーター，PTA など
学校・家庭・地域それぞれの分野で宇都宮市の教育を支える人たちを紹介

きらきらびと☆見つけた！

- ・文化，スポーツ，科学など様々な分野で活躍する宮っ子などの紹介

令和元年度イベントの様子

- ・宇都宮市民芸術祭40周年記念事業など



◆「広報うつのみやプラス（宇都宮の教育 ココがスゴい）」の発行（令和元年9月）

【配布先】 市内各世帯，小中学校，各公共施設

【内容】

「知（学力）・徳（心）・体（体力）」で人間力の高い宮っ子へ

- ・全校配置された学校図書館司書による「図書館教育」，
豊かな心を育む「宮っ子心の教育」，
全校配置された学校栄養士による食の大切さなどを学ぶ「食育」
などの紹介



◆メディアの有効活用

- ・市ホームページへの教育委員通信「みんなで育てよう かがやく宮っこ」の掲載（随時）
教育委員の活動報告（教育施設の視察，懇談会等）を発信した。
- ・教育委員会ホームページ（トップページ）の活用
月替わりで学校（中学校1校，小学校2校）における活動の様子を撮影した写真を掲載し，市民の学校活動に対する一層の理解を図った。

◆パブリシティ^(※10)の有効活用

・パブリシティ相談窓口の設置

教育企画課と学校教育課にパブリシティ相談窓口を設置し，パブリシティを強化したい教育委員会事務局各課及び教育機関からの相談を受けて報道関係機関へ働きかけを行うなど，パブリシティの積極的活用を図った。

・パブリシティ活動による情報提供

	平成30年度	令和元年度	前年比
年間	368件	307件	△16.6%
情報提供強化月間 (8月～11月)	142件	111件	△21.8%

(※10) パブリシティ

パブリシティとはPRの一種で，プレスリリースやインタビューへの応対などを通して，メディア取組内容などを取り上げてもらう活動のことをいう。

【パブリシティ活動の活動指標（目標値）】

目標1 年間情報提供件数365件

＜教育委員会1日1件パブリシティ運動＞

目標2 各学校・施設において年間最低1件は情報提供をする。

◆効果的な情報発信の仕組みづくり

・「知ってもらおう運動」の推進の継続

局内課長補佐をメンバーとした「知ってもらおう運動推進会議」を月1回開催し、教育委員会全体として効果的なPR戦略をまとめ、実践した。

・教育委員会広報事務研修の実施

教育委員会及び小中学校の広報担当者を対象に、市民や地域住民に対して情報発信をする際に必要な視点や、広報紙を編集する際の一目で伝わる「見せ方」のポイントや、誰もが読みやすいと感じる「書き方」のポイントなどを学ぶ、広報力の向上を図るための研修を実施した。

2 広聴活動

◆教育委員会の活動

教育現場からの意見を広く取り入れるため、教職員との懇談会や教育施設視察時の関係者との意見交換会などを通して、教育現場の意向を把握するとともに、教育委員会会議での「学習内容定着度調査結果」などの報告案件や「うつのみや学校マネジメントシステム」などの各種アンケートにより、教育現場の実態を把握した。

◆教育行政相談

令和元年度に教育委員会が投書やメール等で受けた教育行政相談については下記のとおりであり、教育委員会会議で報告し、情報共有を図った。

課名	相談内容	件数
教育企画課	学校の設置及び廃止に関すること	1
	その他	2
学校管理課	学校の環境整備に関すること	2
	その他	4
学校教育課	学校の教育課程、学習指導及び進路指導に関すること（保健体育を除く）	4
	児童生徒指導に関すること	1
	その他	2
学校健康課	学校給食の栄養・衛生管理に関すること	1
	学校における伝染病に関すること	2
	その他（学校における安全確保、化学物質過敏症に関する対応について）	1
生涯学習課	放課後児童に関すること	4
	図書館・視聴覚ライブラリーの利用に関すること	5
	その他	4
文化課	芸術文化振興に関すること	2
	市内一般文化財に関すること	1
スポーツ振興課	スポーツ施設、サイクリングターミナルの整備及び管理運営に関すること	12

～第6章 総合評価～

1 評価

【教育委員会の活動】

- ・教育委員会活動については、プログラミングの公開授業などの教育施設視察や、特別な支援が必要な児童生徒への指導上の課題等を把握するための教職員との懇談会等の活動により、教育現場の実態把握や課題認識の共有を図ることができた。委員 de サロンにおいては、新設小学校の開校準備に係る進捗状況など、各課業務の現状や課題についての理解を深めるとともに、委員間での共通認識を図ることができた。これらの取組により、教育委員会会議において教育現場の実態や意向などを踏まえた、充実した議論を行うことができた。また、教育委員会主要事業の進行管理報告や、教育委員会会議における自由討議、教育委員の課担当制、各課事業の現状・課題等にかかる意見交換のための委員 de サロンなどの取組により、教育委員による教育長及び教育委員会事務局の事務執行にかかるチェック機能の強化を図ることができた。
- ・総合教育会議については、会議を通して、学校現場における情報化への取組状況や今後の方向性について市長との共通認識を図るとともに、校務の一層の効率化やシステム化に向けた環境整備や、子どもたちが主体的にICT機器を利活用できるよう、情報教育のさらなる充実に向けて、市長と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認することができた。

【教育委員会施策】

- ・教育委員会施策については、第6次総合計画基本計画の体系のうち、教育委員会に関係する4つの基本施策とそれを構成する16の施策について、本市で実施している行政評価を活用しながら評価した結果、基本施策を構成する16の施策について、施策指標の達成度や市民意識調査結果の満足度などで評価される総合評価は「概ね順調」又は「順調」で、計画的に施策事業の推進が図られている。

【広報・広聴活動】

- ・広報・広聴活動については、「教育委員会だより」の発行に加え、「宇都宮の教育 ココがスゴい」と題し本市の充実した小中学校教育について政策特集を実施するなど、教育委員会の取組について積極的な情報発信に努めるとともに、効果的・効率的な広報手法を学ぶ「教育委員会広報研修」を実施し、広報活動意識の向上を図ることができた。

2 課題と今後の方向性

【教育委員会の活動】

- ・教育委員会活動については、教育委員会会議において教育現場の実態や意向などを踏まえた充実した議論を行っていく必要があることから、時事的な教育課題を捉えながら、教育施設視察や教育懇談会などの充実を図る。また、視察等の実施においては、可能な限り教育委員会会議と同日開催とするなど効果的・効率的な活動に取り組んでいく。
- ・総合教育会議については、第6次総合計画に掲げる「子育て・教育の未来都市」、「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向け、市長と教育委員会がより緊密に連携を図り、総合的・横断的な教育行政を推進することが重要であることから、会議を通して協議・調整を行い、より一層の教育行政の充実に努めていく。

【教育委員会施策】

- ・教育委員会施策については、「子育て・教育の未来都市」の実現に向けて、総合的・体系的に教育行政を行っていくことが必要であることから、ICTの効果的な活用や安全で快適な学校施設の整備など学校教育の推進に取り組むとともに、家庭・地域の教育力の向上、文化振興、生涯スポーツの推進などを図っていくこととする。また、今般の新型コロナウイルス感染症への対応として、安全・安心な環境を整える感染症対策や児童生徒の学びの保障が必要である。このため、検温の実施や消毒液の設置などにより学校教育や生涯学習、文化事業、スポーツ活動が安全に安心して行えるよう衛生管理の徹底に努めていく。併せて、新たに配置された学習指導員などの活用や、GIGAスクール構想に基づく、高速大容量通信ネットワークと1人1台端末の一体的な整備を進め、児童生徒の学びの保障に向けて取り組んでいく。

【広報・広聴活動】

- ・広報・広聴活動については、「市民に見える教育委員会」の実現に向け、教育委員会だよりの発行や積極的なパブリシティ活動などを通して、引き続き情報発信に努めるとともに、伝えるべき情報が確実に伝わり、教育委員会の取組に更なる関心を持ってもらう必要があることから、広報活動意識やスキルの向上を目的とした研修の活用等により、教育委員会の広報活動の充実に取り組んでいく。また、これまでの取組について評価・検証を行い、広報プランの改定を通じて、教育委員会で行っている取組の目的や内容を理解してもらうための広報活動を展開していく。

～第7章 評価委員による所見～

1 教育委員会評価委員会議

【日 程】令和2年9月24日（木）

【結 果】

- ・事務局から本年度の教育委員会評価の概要について説明したのち、「令和元年度評価委員の所見への対応状況」、「教育委員会の活動」、「教育委員会施策」、「広報・広聴活動」についてご意見をいただいた。
- ・各評価委員からの所見については下記のとおり。



2 評価委員による所見

◆ 渡邊 弘 委員

(1) 総合評価

- ・全体的な評価のあり方については、本教育委員会において、評価の趣旨を踏まえ、評価のしくみ、評価対象、実施期間、評価方法の全般にわたり、教育に関する事務管理及び執行の状況の点検評価が全体的に適切に実施されていると判断する。
- ・評価・点検の方法についても、自己評価の実施や外部評価の聴取を中心として、PDCAサイクルが機能しており適切に行われていると判断する。なお、今後さらに充実させていくために「Plan」の前提として「Observe（観察）」を強化していただきたい。
- ・令和元年度の評価委員の所見への対応も誠実に行為されており、特に問題はないと判断する。さらに、報告書の作成については、図表や写真などの掲示により分かりやすくまとめられており適切に行われていると判断する。今後は、特に力を入れている点や新たな取組などが一目でわかる工夫などを検討していただきたい。

(2) 教育委員会の活動

- ・本教育委員会では、活動状況の見える化を図り適切に自己評価を行っている判断する。
- ・「委員 de サロン」の実施により、事前に事務局と必要な案件について意見交換をすることで、定例会での時間短縮を図っている点は評価できる。委員協議会が時間短縮されている点はよいが、重要な案件についてはしかるべき時間を取り協議していただきたい。
- ・教育施設視察については先述した通り「観察」が重要であり、今後も喫緊の課題などに係るものについて委員の方々に視察していただければと考える。
- ・教育懇談会の開催は、働き方改革が求められている現在、今後さらに充実していただきたい。
- ・「宇都宮学」については、さまざまな分野と連携して充実したものになることを期待していると同時に、今後は「学」としてだけでなく、多少「遊び」的な要素を含んだものによる宇都宮を楽しく知る工夫も重要であると考えている。

(3) 教育委員会施策

- ・本教育委員会の基本施策・施策については、全体的に昨年より実績値などが上がっているものが多く、また総体的に「順調」あるいは「概ね順調」でありよい傾向にあると判断する。
- ・各施策では、「施策目標」「施策指標」「評価・課題」「今後の方向性」の各項目において、社会情勢や市民のニーズなどを十分に踏まえながら具体的に記載されており、適切に自己評価が行われていると判断する。
- ・今後は、各施策の諸課題を精査検討して「概ね順調」から「順調」を目指していただきたい。

(4) 広報・広聴活動

- ・広報活動では、昨年度に比較してパブリシティ活動による情報提供が16.6%減少しているということで、「教育委員会1日1件パブリシティ運動」のもと今後は増加する工夫を期待したい。
- ・新たに取り入れた「教育委員会広報事務研修」などを通して、さらに市民に分かりやすく整理された情報の提供を期待すると同時に、理解を深める広報を推進していただきたい。

◆ 加藤 史子 委員

(1) 総合評価

- ・評価のあり方、評価・点検の方法について、評価の趣旨に則り、適切に行われていると判断する。
- ・報告書は、表や写真を取り入れ、注釈や下線などの補足も丁寧で、わかりやすく作成されている。
- ・評価委員会議の進行については、より理解を深めた上で評価し判断するために、「説明」と「質疑」の時間配分についてご検討いただきたい。また、補足資料として広報紙や関連行事の案内等があると、よりありがたい。成果が分かり評価の手掛かりになると考える。

(2) 教育委員会の活動

- ・より効率的で有意義な会議開催を目指し、必要な会議が適切に開催されていると判断する。
- ・特に「委員 de サロン」の定着は、委員の共通理解の促進や会議の進行円滑、実務担当者との充実した意見交換、事務執行のチェック機能の強化等、多方面での工夫と成果が伺え、高く評価できる。
- ・視察や研修の回数や内容について、適切で妥当と考える。
- ・また、委員がそれらを通して知識や理解を深め、委員としての資質向上を目指す姿勢が伺え、適切に自己評価が行われていると判断できる。
- ・市議会との意見交換や総合教育会議の報告から、共通理解と取組の連携強化が伺え、教育行政への反映が期待できる。

(3) 教育委員会施策

- ・4つの基本施策に基づく16の施策に関し、社会情勢や現場の状況、要望等を踏まえ、所管課がそれぞれの課題について誠実に対応し今後の方向性を見定めていることから、適切な自己評価が行われていると判断できる。
- ・「意識調査の市民満足度」については、施策への理解度も含め、市民のニーズに合っているかの自己評価の手掛かりとしていることから数値等の明記が望ましいと考える。

(4) 広報・広聴活動

- ・広報事務の研修の実施やパブリシティ活動の目標値の設定、「知ってもらおう運動」の推進継続等、効果的な広報活動への工夫と成果が伺え、充実した情報発信が実施されていると判断する。
- ・教育現場の意向や、各種アンケートの市民の声を聴き、今後も引き続き「市民に見える教育委員会」を目指して「宇都宮の教育」への関心が高まるような広報活動を期待している。

～ おわりに ～

社会情勢の変化や教育ニーズの多様化などにより、教育をめぐる様々な課題が顕在化している中、その中核を担う教育委員会においては、これまで以上に学校や家庭、地域、企業などと一体となった取組が求められております。

本市教育委員会においては、「共に歩む教育委員会、先を見る教育委員会」をモットーに、教育現場の実態を踏まえながら、学校と共に、家庭と共に、また地域と共に、10年先、20年先を見据えた教育行政を推進しております。

また、本市では、平成17年度に策定した、本市における人づくりの指針である「宮っこ未来ビジョン」の基本理念及び基本目標を、平成27年度に宇都宮市教育大綱として位置付けたところであり、心豊かでたくましく生きることができる人づくりの実現という目標に向かい、学校教育の充実はもとより、家庭や地域の教育力の向上などの様々な取組を展開しております。

このような中、昨年度1月から3月にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施予定であった取組の一部が中止を余儀なくされるなど、各分野において計画通りに実施できない事業がありました。令和2年度におきましても、止む無く中止とした行事もありましたが、修学旅行など学校生活の節目となる大切な学校行事については、感染症対策を十分に講じた上で実施するなど、子ども達の成長の場の確保に努めてまいりました。

今後につきましても、安全・安心な環境を整える感染症対策やどのような状況下においても子ども達の学びを止めることなく、誰一人取り残すことのない学びの保障に向けて全力で取り組むなど、今日的な課題に対しても真正面から向き合いながら教育活動に積極的に取り組んでまいります。

教育委員会の点検・評価につきましては、議会への報告や市民への公表を行うことにより、本市教育委員会の取組について多くの市民の皆さまに知っていただくとともに、本市教育行政への御理解、御協力をいただく機会となることを期待しております。

今後とも、この点検・評価の結果を踏まえ、本市の教育を担う責務を十分に認識しながら、常に教育行政の根本に立ち返り、社会情勢や新たな教育ニーズに応じた効果的な施策の展開に努め、新しい宇都宮の未来を切り拓く「人づくり」を推進してまいります。

令和元年度 教育委員会付議案件等一覧

◆令和元年第6回教育委員会【臨時会】（平成31年4月1日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第12号	平成31（2019）年度教育委員会基本方針について
報告	報告第21号	学校等事件・事故について

◆令和元年第7回教育委員会【定例会】（平成31年4月19日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第13号	平成31年度教育委員会の活動について
	議案第14号	宇都宮市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
報告	報告第22号	平成31年度教育委員会主要事業について
	報告第23号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第24号	平成30年度宇都宮市奨学金貸付者の選考結果について
	報告第25号	平成30年度宇都宮市入学一時金貸付者の選考結果について
	報告第26号	教育長の権限に属する事務の委任及び事務決裁規程の一部改正
	報告第27号	テクノポリスセンター地区新設小学校の体育館等の実施設計について
	報告第28号	「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」の策定について
	報告第29号	宇都宮市公園条例施行規則の一部改正について
	報告第30号	学校等事件・事故について
その他	(1)	平成30年度第3回社会教育委員の会議の結果について
	(2)	平成31年度視聴覚ライブラリー映画会一覧表について
	(3)	平成31年度「図書館カレンダー・しおり」広告掲載者の決定について
	(4)	宇都宮美術館2019年度展覧会スケジュール
	(5)	第40回宇都宮市民芸術祭について
	(6)	宇都宮市文化会館2019プログラムについて
	(7)	平成30年度第1回宇都宮市スポーツ推進審議会の結果について
	(8)	平成31年度宇都宮市スポーツ振興財団の自主事業について

◆令和元年第8回教育委員会【臨時会】（令和元年5月10日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第15号	教職員の人事の内申について

◆令和元年第9回教育委員会【定例会】（令和元年5月17日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第16号	令和2年度使用教科用図書の採択の基本方針等について
	議案第17号	宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員の委嘱について
	議案第18号	宇都宮市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案第19号	宇都宮市教育支援委員会への諮問について
報告	報告第31号	教育行政相談の内容と対応について
報告	報告第32号	平成30年度就学援助の支給状況等について
	報告第33号	学校等事件・事故について
	報告第34号	平成30年度学校給食費滞納対策の結果について
	報告第35号	宇都宮市教育支援委員会から答申を受けた対象者の就学先について
その他	(1)	宇都宮ジャズ・イベント2019
	(2)	宇都宮市小学校特別支援学級合同運動会の開催について

◆令和元年第10回教育委員会【臨時会】（令和元年6月6日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第20号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆令和元年第11回教育委員会【定例会】（令和元年6月13日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第21号	令和2年度宇都宮市教育委員会組織・定員の方針について
	議案第22号	宇都宮市通学区域審議会委員の解職及び委嘱について
	議案第23号	宇都宮市社会教育委員の委嘱について
	議案第24号	宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会委員の委嘱について
	議案第25号	宇都宮市教育支援委員会委員の委嘱について
報告	報告第36号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第37号	平成30年度児童虐待通告受付等の状況について
	報告第38号	学校等事件・事故について
	報告第39号	令和2年度全国高等学校総合体育大会宇都宮市実行委員会の設立について
その他	(1)	南図書館開館8周年記念事業 日本とハンガリーの絆を深めるタペ「ハンガリーってどんな国？」
	(2)	企画展「うつのみやの戦災展」について
	(3)	第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）総合視察の開催結果について

◆令和元年第12回教育委員会【臨時会】（令和元年6月28日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第26号	宇都宮市社会教育委員の委嘱について

◆令和元年第13回教育委員会【定例会】（令和元年7月19日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第27号	消費税率及び地方消費税率の改定による使用料等の額の改定に伴う関係規則の整備に関する規則の制定
	議案第28号	宇都宮市文化財保護審議会への諮問について
報告	報告第40号	令和元年6月議会一般質問の概要について
	報告第41号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第42号	消費税率及び地方消費税率の改定による使用料等の額の改定に伴う関係規則の整備に関する規則の制定（市規則）
	報告第43号	令和元年度宇都宮市返還免除型育英修学資金貸付者の選考結果について
	報告第44号	育英事業における収納対策について
	報告第45号	令和2年度の学期間休業日について
報告	報告第46号	宇都宮市文化財保護審議会への諮問の取り下げについて
	報告第47号	第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」開催の正式決定について
	報告第48号	学校等事件・事故について
その他	(1)	文化会館事業 伝統芸能鑑賞シリーズ 宇都宮能「喜多流」公演について

◆令和元年第14回教育委員会【臨時会】（令和元年7月26日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第29号	令和2年度使用宇都宮市立小・中学校教科用図書採択について
	議案第30号	教職員の人事の内申について

◆令和元年第15回教育委員会【定例会】（令和元年8月21日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第31号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第32号	令和元年度教育委員会点検・評価報告書について
	議案第33号	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会委員の解職及び委嘱について
報告	報告第49号	令和元年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第50号	令和元年度宇都宮ジュニア未来議会の概要について
	報告第51号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第52号	平成30年度いじめ、暴力行為、不登校の状況について
	報告第53号	学校等事件・事故について
その他	(1)	令和元年度第1回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(2)	令和元年度第1回社会教育委員の会議の結果について
	(3)	妖精ミュージアム企画展「今村幸治郎作品展」について
	(4)	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会宇都宮市実行委員会の設置について

◆令和元年第16回教育委員会【定例会】（令和元年9月27日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第34号	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会委員の委嘱について
	議案第35号	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会への諮問について
	議案第36号	令和2年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について
報告	報告第54号	令和元年9月議会一般質問の概要について
	報告第55号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第56号	隣接校との通学区域弾力化等による令和2年度入学者の募集について
	報告第57号	テクノポリスセンター地区新設小学校の校名について
	報告第58号	平成31年度「全国学力・学習状況調査」, 「とちぎっ子学習状況調査」の結果について
その他	(1)	「第14回うつのみや食育フェア」の開催について
	(2)	令和元年度第1回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について
	(3)	うつのみや版親学と子どもの情報誌「こどもるっくる」第17号について
	(4)	令和元年度宇都宮市民大学（前期講座）実施状況について
	(5)	第25回うつのみや百人一首市民大会, 蓮生記念第6回全国競技かるた宇都宮大会の開催について
その他	(6)	第77回国民体育大会宇都宮市準備委員会第3回総会及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会宇都宮市実行委員会第1回総会の開催結果について
	(7)	宇河地区特別支援学級児童生徒作品展について

◆令和元年第17回教育委員会【定例会】（令和元年10月18日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第37号	令和2年度教育委員会当初予算編成方針について
報告	報告第59号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第60号	台風第19号による教育委員会所管施設の被害状況等について
その他	(1)	「第8回南としょかん祭」の開催について
	(2)	人材かがやきセンター主催講座（前期）の実施状況について
	(3)	宇都宮城址まつり伝統文化と歴史の祭典の開催について
	(4)	第42回宇都宮市小学校特別支援学級合同収穫祭の開催について
	(5)	令和元年度教育センター土曜公開講座「教育なう」の開催について

◆令和元年第18回教育委員会【臨時会】（令和元年10月25日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第38号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆令和元年第19回教育委員会【定例会】（令和元年11月21日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第39号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第40号	宇都宮市教育委員会の会計年度任用職員の任用等に関する規則の制定について
	議案第41号	宇都宮市教育委員会の職の設置等に関する規則の一部改正について
	議案第42号	宇都宮市文化財保護審議委員会への諮問について
報告	報告第61号	令和2年度教育委員会当初予算要求概要について
	報告第62号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第63号	令和元年度宇都宮市教育委員会教育支援者感謝状受賞者の決定について
	報告第64号	令和元年度宇都宮市社会教育振興貢献企業等への感謝状贈呈企業等の決定について
	報告第65号	子どもの家・留守家庭児童会事業の再構築について
その他	(1)	第12回うつのみや人づくりフォーラムの開催について
	(2)	令和元年度第2回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(3)	令和元年度第2回社会教育委員の会議の結果について
	(4)	第25回うつのみや百人一首市民大会の結果について
	(5)	蓮生記念第6回全国競技かるた宇都宮大会の結果について
	(6)	宇都宮城址まつり 伝統文化と歴史の祭典の結果について
	(7)	第43回宇都宮市小学校特別支援学級合同学習発表会の開催について

◆令和元年第20回教育委員会【定例会】（令和元年12月20日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第43号	成年年齢引き下げに伴う成人式の対象年齢等について
	議案第44号	宇都宮市立図書館条例施行規則の一部改正
	議案第45号	宇都宮市認定建造物の認定について
報告	報告第66号	令和元年12月議会一般質問の概要について
	報告第67号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第68号	東京2020オリンピック聖火リレーについて
	報告第69号	いちご一会とちぎ国体の競技別会期について
その他	(1)	第12回うつのみや人づくりフォーラムの開催結果について
	(2)	第8回南としょかん祭の開催結果について
	(3)	第33回宇都宮マラソン大会の結果について
	(4)	第57回宇都宮市民スポーツ大会の結果について

◆令和2年第1回教育委員会【臨時会】（令和2年1月9日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第1号	職員の人事について

◆令和2年第2回教育委員会【定例会】（令和2年1月17日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第2号	テクノポリスセンター地区新設小学校の校名案の決定について
	議案第3号	教職員の人事の内申について
報告	報告第1号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第2号	宇都宮市教育委員会会計年度任用職員の勤務時間に関する規程の制定
	報告第3号	令和元年度小・中学校卒業式あいさつ文について
	報告第4号	令和元年度全国学校給食週間の取組について
	報告第5号	子どもの家・留守家庭児童会事業の再構築後における料金、運営方法等について
	報告第6号	宇都宮市教育支援委員会からの答申について
その他	(1)	市民大学（後期）実施状況について
	(2)	令和2年宇都宮市成人式の実施結果について

◆令和2年第3回教育委員会【定例会】（令和2年2月19日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第4号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第5号	令和2年度教育委員会の組織について
報告	報告第7号	令和元年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第8号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第9号	宇都宮市会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則の制定
	報告第10号	令和元年度宮っ子表彰及び義務教育皆勤賞表彰について
	報告第11号	令和元年度「宮っ子心の教育表彰」教育委員会賞について
報告	報告第12号	道徳科地域教材（小学校版）について
	報告第13号	「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの令和元年度結果概要について
	報告第14号	学校等事件・事故について
	報告第15号	令和元年度本市児童生徒の体力について
	報告第16号	令和2年度「宇都宮市教職員研修計画」の策定について
その他	(1)	隣接校との通学区弾力化等による令和2年度入学者の募集結果について
	(2)	教育委員会だより第20号について
	(3)	令和元年度第3回社会教育委員の会議の結果について
	(4)	宇都宮市立図書館における「リサイクル市」の実施結果について
	(5)	第61回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会の結果について

◆令和2年第4回教育委員会【臨時会】（令和2年3月9日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第6号	教育委員会における職の設置及び廃止について
	議案第7号	職員の人事について
	議案第8号	教職員の人事の内申について
	議案第9号	教職員の人事の内申について
報告	報告第17号	新型コロナウイルス感染症に対する市立小中学校の臨時休業について

◆令和2年第5回教育委員会【臨時会】（令和2年3月16日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第10号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆令和2年第6回教育委員会【定例会】（令和2年3月19日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第11号	職員の人事について
	議案第12号	「ワークライフいきいきアクションプラン」について
	議案第13号	「宇都宮市学校施設長寿命化計画」について
	議案第14号	宇都宮市学校職員証の交付に関する規則の一部改正
	議案第15号	「宇都宮市教育委員会楽しい子育て応援計画（教職員版）」の改定について
	議案第16号	「宇都宮市民遺産制度」について
	議案第17号	宇都宮市少年スポーツ指導員設置規則の廃止
協議	協議第1号	令和2年度教育委員会基本方針（案）について
報告	報告第18号	令和2年3月議会一般質問の概要について
	報告第19号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第20号	学校体育館への空調機器の導入について
	報告第21号	令和元年度宇都宮市「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート」の結果概要について
	報告第22号	小学校版「宇都宮学」副読本について
	報告第23号	令和3年宇都宮市成人式について
その他	(1)	「宮っ子ランチ」指導の手引について
その他	(2)	令和元年度第3回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(3)	令和元年度第2回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について

◆令和2年第7回教育委員会【臨時会】（令和2年3月27日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第18号	宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則の一部改正
	議案第19号	宇都宮市教育委員会公印規則の一部改正
報告	報告第24号	学校等事件・事故について

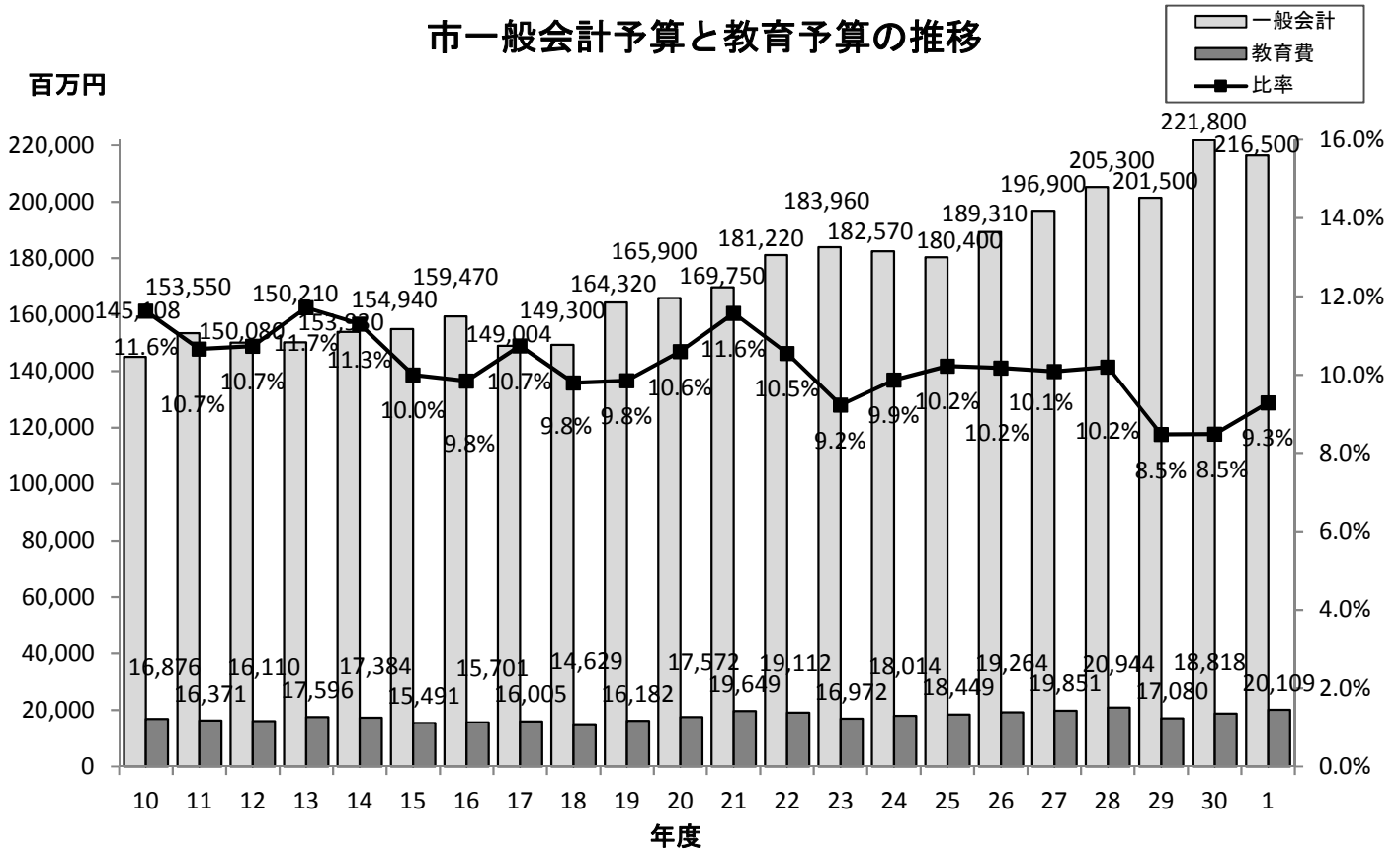
【教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧（令和元年度）】

施策名	産出指標		実績	達成度	評価(※1)	総合評価(※2)
	指標	成果指標				
1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する						
(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成	全小中学校からの教育長奨励賞の申請人数（延べ人数） 「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した中学3年生の割合（学習と生活についてのアンケート）	9,056人 87.2%	8,990人 88.4%	99.2% 101.4%	B A	概ね順調
(2) 未来を生き抜く力の育成	授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合 英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合 「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合（うつのみや学校マネジメントシステム） 学校トイレの洋式化率	76.7% 48.0% 915件 95.0%	84.0% 45.1% 1,044件 92.5%	109.5% 93.9% 114.1% 97.3%	A B A B	概ね順調
(3) 地域とともにある学校づくりの推進	インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。と回答した中学3年生の割合（学習と生活についてのアンケート）	49.9% 66.0%	55.0% 70.7%	110.2% 107.1%	A A	順調
(4) 教育環境の充実	特別支援教育の推進において、一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教員の割合 「私は今の学校が好きです。」と回答した児童生徒の割合（宇都宮学校マネジメントシステム） 研究授業を年間4回以上実施した小中学校の割合 「教職員は、わかる授業や児童（生徒）にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）	98.0% 92.4% 80.2% 88.3%	97.9% 88.4% 71.3% 88.5%	99.9% 95.7% 88.9% 100.2%	B B B A	概ね順調
(5) 多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	幼保小連携推進事業（児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等）を実施している学校の割合 幼稚園、保育所等に入園している児童（3～5歳）の割合	94.0% 98.0%	92.6% 96.8%	98.5% 98.8%	B B	概ね順調
(6) 教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	奨学金貸付基準を満たす希望者のうち、貸与を受けることができた人の割合 市の提供講義に「満足した」と回答した受講者の割合	100.0% 95.0%	100.0% 87.0%	100.0% 91.6%	A B	概ね順調
(7) 幼児教育の推進						
(8) 高校、高等教育の充実・支援						
2 生涯にわたる学習活動を促進する						
(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数 生涯学習センターや図書館等の利用者数	325講座 1,777千人	321講座 1,754千人	98.8% 98.7%	B B	概ね順調
(2) 学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	地域における学習支援や体験活動等の教育活動数 地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数	5,070回 140,015人	4,683回 125,399人	92.4% 89.6%	B B	概ね順調
(3) 学んだ成果を生かした活動の推進	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数 学習活動の支援に関わる活動者数	325講座 682人	321講座 672人	98.8% 98.5%	B B	概ね順調
3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する						
(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	地域スポーツクラブがカバーする地域数 地域スポーツクラブ会員数	14地域 5,000人	10地域 3,519人	71.4% 70.4%	B B	概ね順調
(2) スポーツ活動環境の充実	スポーツ教室の参加者数 体育館（競技場、ホール・多目的室、武道場）の稼働率	49,438人 79.61%	44,927人 72.40%	90.9% 90.9%	B B	概ね順調
(3) スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	スポーツ指導者研修の受講者数 スポーツ少年団1団当たりの平均指導者数	732人 5.39人	642人 4.11人	87.7% 76.3%	B B	概ね順調
4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する						
(1) 文化活動の充実	文化芸術事業の参加者・観覧者数 文化会館の施設稼働率	350,000人 81.0%	370,960人 76.0%	105.9% 92.6%	A B	概ね順調
(2) 文化の創造・継承、保存・活用	文化資源の周知啓発事業参加者数 文化財展示施設利用者数	98,000人 155,200人	34,773人 167,069人	91.5% 107.6%	B A	概ね順調

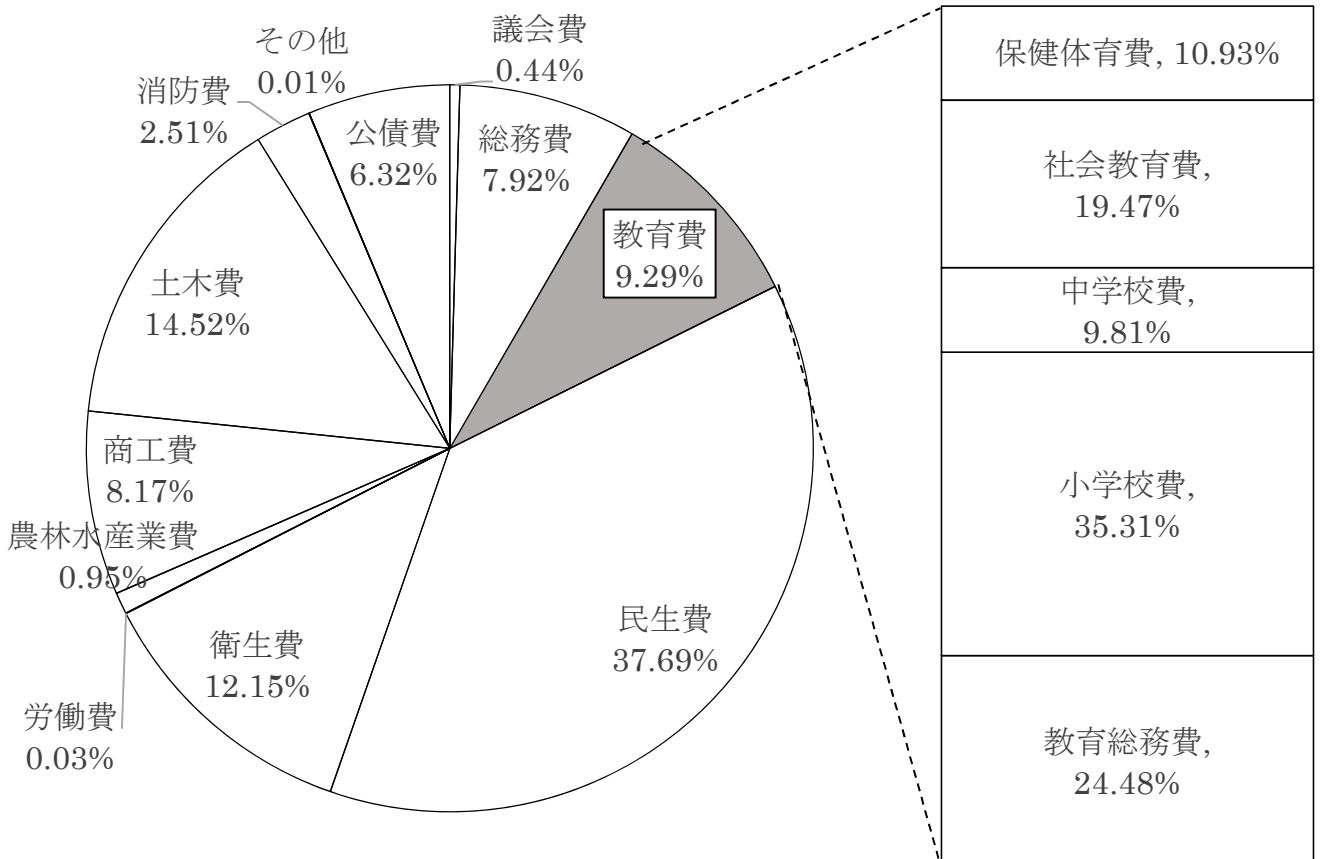
(※1)評価 A:達成度100%以上 B:達成度70%~100%未満 C:達成度70%未満
(※2)総合評価 ①順調(90点以上) ②概ね順調(75点以上90点未満) ③やや遅れ(75点未満)

【一般会計予算と教育予算】

市一般会計予算と教育予算の推移



市一般会計予算と教育予算の内訳（令和元年度）





社会総ぐるみによる人づくりの『合言葉』

「育もう 地域の愛で 子どもの未来」

～大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めます～

宇都宮市・宇都宮市教育委員会

令和2年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書

発行年月 令和2年11月

発行 〒320-8540

宇都宮市旭1丁目1番5号

宇都宮市教育委員会事務局（教育企画課）

電話 028-632-2707

FAX 028-639-7159

Eメール u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp